

大学図書館における「西洋古版本」に関する調査
集計報告書

私立大学図書館協会東地区部会研究部

西洋古版本研究分科会

目 次

I. 「西洋古版本に関するアンケート」実施について	1
II. 集計結果報告	
[はじめに]	
1. アンケート集計にあたって	2
2. アンケート調査票	3
[集計結果報告]	
1. 西洋古版本の概要について	1 4
2. 収集について	2 0
3. 洋貴重書の選書・購入について	2 8
4. 整理について	3 4
5. 洋貴重書の利用について	4 6
6. 洋貴重書の活用について	5 2
7. 洋貴重書の保存・修復について	5 8
8. その他 課題など	6 4
III. おわりに	7 2
IV. 資料編	7 4
V. 会員一覧	8 4

「西洋古版本に関するアンケート」実施について

本調査は、全国の大学図書館(国公立)中央館を対象に質問紙調査を行ったものである。国際標準識別子(ISIL)台帳を基に732館(国立83、公立86、私立563)へ依頼葉書を送付し、回答は282館(国立29、公立30、私立223)、回収率は38.5%(国立34.9%、公立34.8%、私立39.6%)であった。質問項目は以下の通りである。

1. 西洋古版本の概要について
2. 収集について
3. 洋貴重書の選書・購入について
4. 整理について
5. 洋貴重書の利用について
6. 洋貴重書の活用について
7. 洋貴重書の保存・修復について
8. その他 課題など

当分科会は、西洋古版本を扱う際に必要な知識と技術の修得を目的として活動している。近年は活動で得た知識を共有すべくウェブサイトを公開した。

当会では西洋古版本に関する様々な課題について意見を交わしてきた。意見交換のなかで浮上してきた問題として、洋貴重書の劣化や保存対策、専門知識をもった職員の確保がある。これらの問題について考えるために、今期はアンケート調査を行った。併せて、当会が1999年12月に実施した調査と比較しながら、西洋古版本に関わる図書館と館員がどのように変化しているか検討を行った。

アンケート集計にあたって

本調査における「西洋古版本」の定義について

一般に、西洋古版本は、およそ 1850 年代までに出版された欧米図書と定義されている。しかし、西洋古版本の定義は各大学図書館で同一ではなく「貴重書」という区分の中に含まれることが多いため、本調査では、西洋古版本に貴重書を含め「洋貴重書」とした。

洋貴重書の所蔵なしと回答した館の扱いについて

設問 1 において洋貴重書の所蔵数 0 を選択した場合は、所蔵館を対象とした設問 2 から 7 までは回答せずに設問 8 へ進むよう予め調査票の設定と指示を行った。そのため、設問 2 から 7 では所蔵数 0 かつ無回答のデータは除いた数値で分析を行った。

前回調査について

前回調査は、送付先私立大学図書館 392 館、回答 269 館、回収率は 68%であった。設問数は 30 で、回答を通して館員の知識不足(資料価値判断、資料取扱い、保存・修復技術など)と予算不足が大きな課題として分かった。今回調査では、以下のように前回調査時からの館員数減少も押さえながら比較検討を進めた。

『学術情報基盤実態調査(旧大学図書館実態調査)』文部科学省発行によると、1999(平成 11)年の大学図書館員数は、総平均 専任 13, 臨時 9(約 22 人)であり、2016(平成 28)年の大学図書館員数は総平均 専任 6, 臨時 7(約 14 人)である。

【問 1-3】洋貴重書はどのような施設に収蔵していますか。(複数回答可)

- 貴重書庫またはそれに準ずる書庫 閉架フロアの一面
 開架フロアの一面 特にない

その他 _____

【問 1-4】洋貴重書の担当者（整理・利用等）について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

- 専任職員（専属） 専任職員（兼任）
 その他（嘱託、非常勤、派遣等） 担当者はいない

■ 2. 収集について

【問 2-1】一般図書の収集方針・選書基準について当てはまるものをお選びください。

- 明文化したものがあり、公開されている。
 明文化したものはあるが、公開されていない。
 明文化したものはないが、慣習的に定まった収集方針がある。
 個々の図書をその時々で判断するので、特に収集方針は定めていない。

【問 2-2】洋貴重書の収集方針・選書基準について当てはまるものをお選びください。

- 明文化したものがあり、公開されている。
 明文化したものはあるが、公開されていない。
 明文化したものはないが、慣習的に定まった収集方針がある。
 個々の図書をその時々で判断するので、特に収集方針は定めていない。

【問 2-3-1】洋貴重書の収集について年代・その他による基準（区分）を設けていますか。

- はい いいえ

【問 2-3-2】「はい」の場合は、どのような基準でしょうか。簡単に結構ですのでご記入ください。

【問 2-4】洋貴重書の予算について当てはまるものをお選びください。

- 予算の中に貴重書（和洋の区別なし）の名目で予算費目がある。
 予算の中に洋貴重書に限定した予算費目がある。
 予算の中に費目はなく、予算全体の中から適宜購入している。
 予算配分はない。

【問 2-5】洋貴重書の収集について何か問題や課題はありますか。(複数回答可)

- 組織・運営面の問題 購入に関わる経費の確保
専門性を有する人材の確保 選書の問題 (選書基準、収集方針、選書ツール等)

その他 _____

■ 3. 洋貴重書の選書・購入について

【問 3-1-1】洋貴重書の購入選定 (基準) あるいは貴重書指定のための機関はありますか。

- 有 無

【問 3-1-2】「有」の場合、それはどのような機関ですか。簡単に結構ですのでご記入ください。

【問 3-2】洋貴重書の選書はどのように行なっていますか。(複数回答可)

- 委員会 (選書、運営等) に諮る 図書館員による選書
教員・学部・学科等の希望・紹介・推薦
洋貴重書は購入していない (【問 4-1】へお進みください。)

【問 3-3】図書館員が洋貴重書を選書する場合の選書ツール・情報について当てはまるものをお選びください。(複数選択可)

- 書店・古書店からの紹介・見計らい 書店・古書店のカタログ・リーフレット等 (冊子体)
インターネット上の目録・カタログ 展示会・オークション
利用しているものはない

その他 _____

【問 3-4】洋貴重書の選書について、課題や問題点はありますか。(複数回答可)

- 価格に関する問題 系統的な選書に関する問題
資料に関する知識の問題 (知識不足、価値判断等)
取引業者に関する問題

その他 _____

■ 4. 整理について

【問 4-1】洋貴重書の日録を作成していますか。

- 一部作成している 全て作成している
作成していない（【問 5-1】へお進みください。）

【問 4-2】洋貴重書の日録データ作成の担当者について当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

- 専任職員（専属） 専任職員（兼任）
その他（嘱託、非常勤、派遣等） 担当者はいない

【問 4-3】洋貴重書の日録規則について当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

- AACR AACR2
NII コーディングマニュアル 館作成の独自規則

その他 _____

【問 4-4】洋貴重書の日録データをインターネット上（OPAC 等）で公開していますか。

- 全て公開している 一部公開している
公開していない

その他 _____

【問 4-5】NACSIS-CAT にて洋貴重書の書誌および所蔵登録を行なっていますか。

- 全て登録している 一部登録している
登録していない NACSIS-CAT に参加していない

【問 4-6】洋貴重書を検索・整理する際に参照するデータベース等について当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

- ユニオンカタログ ESTC
WorldCat LC
BL ISTC
COPAC 特に利用しているものはない

その他 _____

【問 4-7】洋貴重書を含む冊子体目録を作成していますか。

作成している

作成したことがある

作成したことはない

【問 4-8-1】洋貴重書の整理について職員の研修が必要だと思いますか。

はい

いいえ

【問 4-8-2】洋貴重書を整理する職員の研修について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

自館内の研修を受けている・受けたことがある

外部の研修を受けている・受けたことがある

オンデマンド形式の研修を受けている・受けたことがある

研修を受けていない・受けたことがない

その他 _____

【問 4-9】洋貴重書の整理について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

■ 5. 洋貴重書の利用について

【問 5-1】洋貴重書の利用頻度はどのくらいですか。

数年に1回

年1～9回

年10～50回

年51～99回

年100回以上

利用なし

【問 5-2】洋貴重書の利用制限について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

館外貸出禁止

利用場所の制限

閲覧禁止

複写禁止

要事前申請

学外者の利用禁止

複製物など代替資料の利用

利用制限なし

その他 _____

【問 5-3】洋貴重書の利用について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

■ 6. 洋貴重書の活用について

【問 6-1】図書館では洋貴重書を学内外に PR していますか。当てはまるものをお選びください。

(複数回答可)

- 図書館報等の広報誌に掲載している 図書館ホームページに掲載している
 図書館内に展示している 図書館の SNS で発信している
 特に PR はしていない

その他 _____

【問 6-2】教員、館員等が洋貴重書を研究に活用し、論文等で発表することはありますか。

- 有 無 わからない

【問 6-3】大学が広報として洋貴重書を利用することはありますか。当てはまるものをお選びください。

(複数回答可)

- 大学ホームページに写真・動画を掲載している
 行事で展示している 大学出版物に掲載している
 大学のグッズに利用している 講演会等を開催している
 YouTube 等での教育コンテンツに利用している
 特に利用していない

その他 _____

【問 6-4】洋貴重書のデジタルデータを作成していますか。当てはまるものをお選びください。

(複数回答可)

- 画像データを作成している 本文テキストデータを作成している
 作成していない

その他 _____

【問 6-5】洋貴重書のデジタルデータを公開していますか。当てはまるものをお選びください。

(複数回答可)

画像データをインターネット公開している 画像データを学内のみ公開している

本文テキストデータをインターネット公開している

本文テキストデータを学内のみ公開している

公開していない

その他 _____

【問 6-6】洋貴重書の活用について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

■ 7. 洋貴重書の保存・修復について

【問 7-1】洋貴重書の資料保存に関する方針・基準がありますか。

資料保存方針・基準がある

資料の除籍・廃棄方針・基準がある

どちらもありません

【問 7-2】洋貴重書の保存対策として、どのような方法を実行していますか。(複数回答可)

資料保存用の措置（保存箱・袋、調湿紙、製本時の中性紙利用など）をしている・したことがある

資料の脱酸処理をしている・したことがある

資料のくん蒸処理をしている・したことがある

媒体変換（マイクロ化、デジタル化）やレプリカ作成をしている・したことがある

保存環境や資料の劣化調査をしている・したことがある

特にしていない

その他 _____

【問 7-3】洋貴重書の保存・修復について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

■ 8. その他 課題など

【問 8-1】貴館での貴重資料の比重について当てはまるものをお選びください。

- 洋貴重書に重きを置いている 和漢古典籍に重きを置いている
両方に重きを置いている 貴重資料には力をいれていない

【問 8-2-1】洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。〈場所〉（複数回答可）

- 資料に関する収蔵スペースが不足している
資料に関する閲覧スペースが不足している
資料に関する展示スペースが不足している
資料に関する修復作業スペースが不足している

その他 _____

【問 8-2-2】洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。〈人材〉（複数回答可）

- 資料の担当職員が不足している
資料の担当職員の研修が不十分である
資料収集のノウハウが不足している
資料整理のノウハウが不足している
資料活用のノウハウが不足している
資料デジタル化のノウハウが不足している
資料保存のノウハウが不足している

その他 _____

【問 8-2-3】洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。〈資金〉（複数回答可）

- 資料保存の予算が不足している
- 資料デジタル化の予算が不足している
- 資料の購入費が不十分である
- 資料購入の基準、方針が不十分である

その他 _____

【問 8-2-4】洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。〈その他〉（複数回答可）

- 長期の計画が不十分である
- 類縁機関との連携が不足している
- 資料についての PR が不十分である

その他 _____

【問 8-3】ほかに何かお気づきの課題や問題点がありましたら、ご自由にご記入ください。

【問 8-4】洋貴重書の扱いに関する御意見、今後の計画などがありましたら、ご自由にご記入ください。

アンケート調査は以上で終了となります。ご協力ありがとうございました。

【問い合わせ先】

私立大学図書館協会東地区部会研究部西洋古版本研究分科会（2016-2017 年度）

（代表 中央大学図書館 永井夏紀）

問い合わせ先：東京基督教大学 図書館 阿部伊作

〒270-1347 千葉県印西市内野 3-301-5-4

メール：seiyo16_17@googlegroups.com

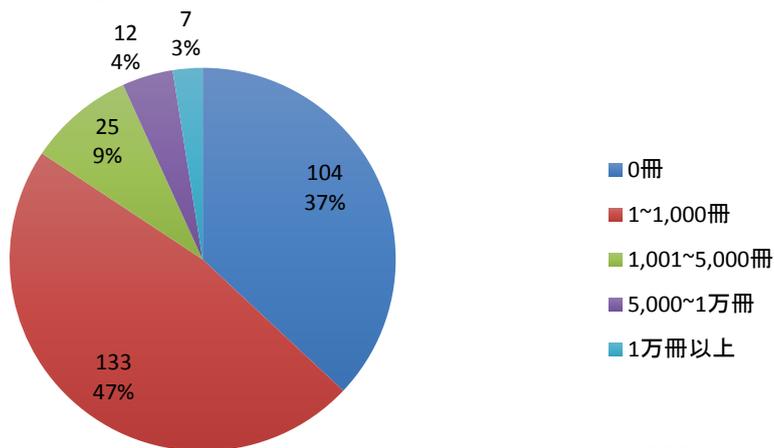
[TEL/FAX:0476-46-1407](tel:0476-46-1407)（午前 9～午後 4 時半。不在の場合は FAX ください）

1. 洋貴重書の概要について

1-1. 洋貴重書の蔵書数について当てはまるものをお選びください。(冊)

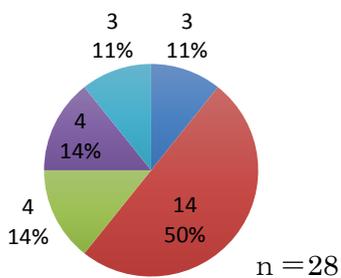
0冊	104館	1~1,000冊	133館
1,001~5,000冊	25館	5,000~1万冊	12館
1万冊以上	7館	無回答	2館

国公立 全体



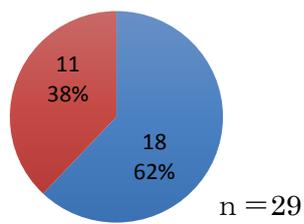
n = 283

国立



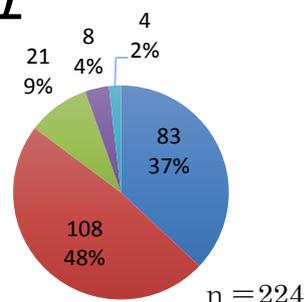
n = 28

公立



n = 29

私立

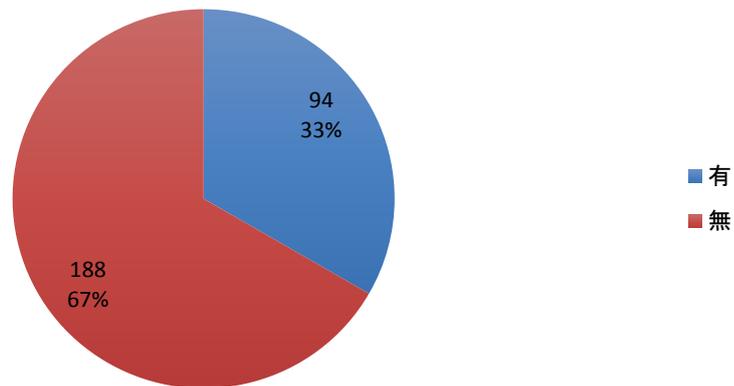


n = 224

1-2-1. 洋貴重書のコレクションはありますか。

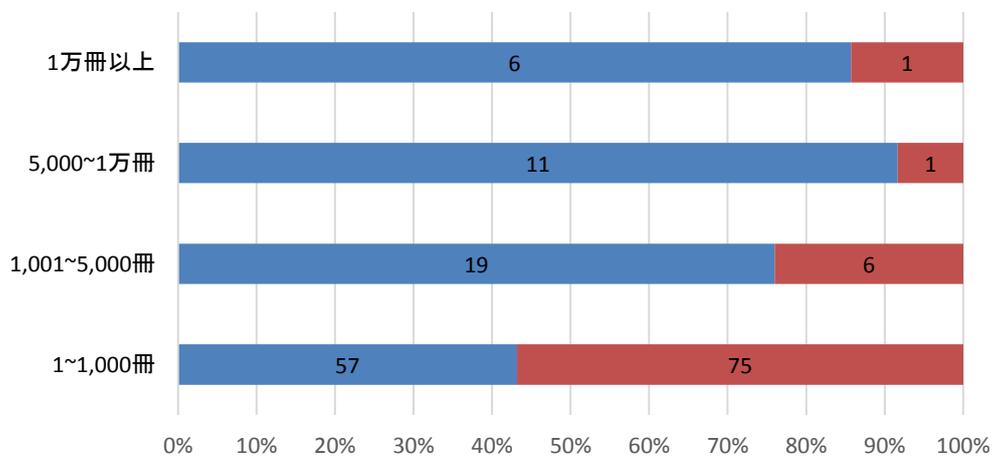
有 94 館 無 188 館 無回答 1 館

国公立 全体



n = 282

国公立 全体 所蔵数別



1-2-2. 「有」の場合、具体的にどのような資料または文庫がありますか。

資料編 コレクション一覧をご確認ください。

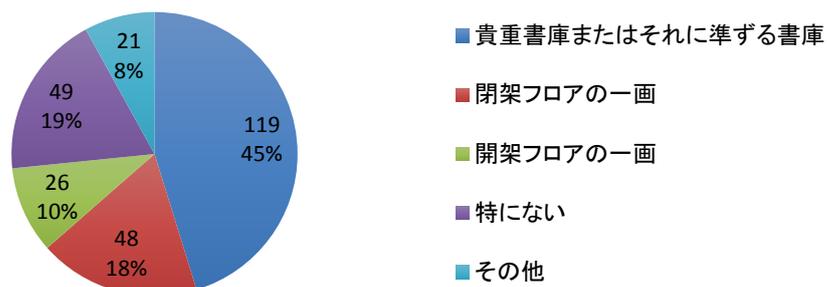
1-2-3. インターネット公開が可能なコレクションを所蔵されている場合はその URL をご記入ください。

資料編 URL 一覧をご確認ください。

1-3. 洋貴重書はどのような施設に収蔵していますか。(複数回答可)

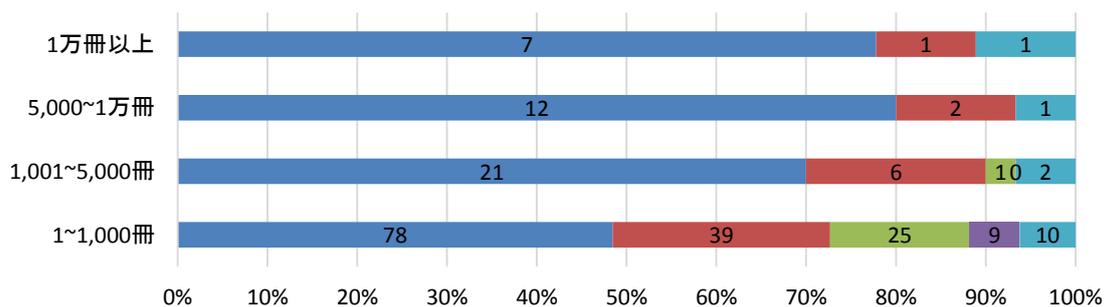
貴重書庫またはそれに準ずる書庫	119 館	閉架フロアの一画	48 館
開架フロアの一画	26 館	特にない	49 館
その他	21 館		

国公立 全体



n = 263

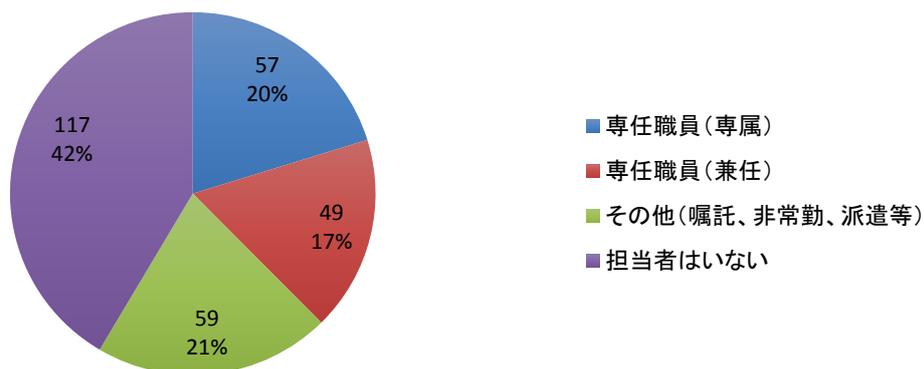
全体 所蔵数別



1-4. 洋貴重書の担当者（整理・利用等）について当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

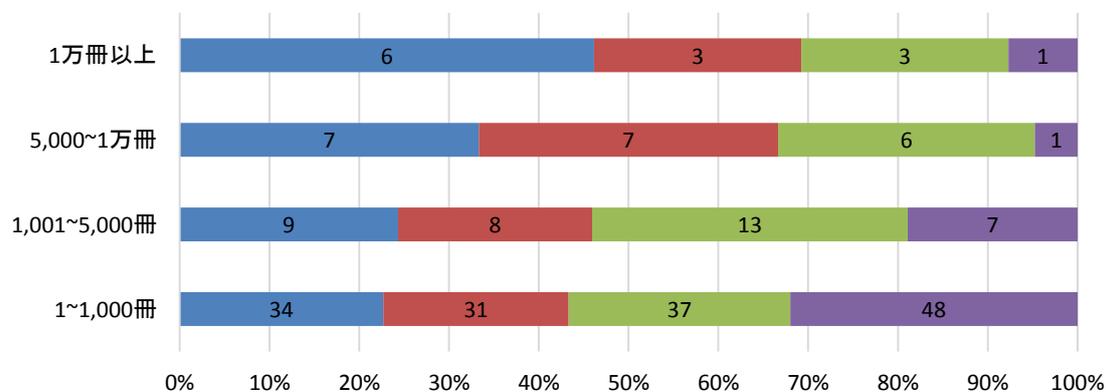
専任職員（専属）	57 館	専任職員（兼任）	49 館
その他（嘱託、非常勤、派遣等）	59 館	担当者はいない	117 館

国公立 全体



n = 282

国公立 全体 所蔵数別



問.1 では、所蔵冊数状況とコレクションの有無、収蔵場所、担当職員の配置・雇用形態を尋ねた。5,000 冊以上を所蔵している大学は 10%に満たない結果となった。しかし、所蔵冊数が少なくても、特色のあるコレクションの所蔵やデジタル化での公開が行なれていることが確認できた。収蔵場所や担当者については、所蔵冊数によって比率は異なるが、貴重書庫への収蔵や専任職員による担当が多く確認できた。

1-1. 洋貴重書の蔵書数について

回答のあった大学図書館のうち 63%(177 館)は何らかの洋貴重書を所蔵しており、37%(104 館)は所蔵がなかった。所蔵冊数別に見ると、1~1,000 冊が 47% (133 館)、1,001~5,000 冊が 9% (25 館)、5,000~1 万冊が 4% (12 館)、1 万冊以上が 3% (7 館) となった。

国公立別に見ると、国立 (28 館) では、89% (25 館) が洋貴重書を所蔵しており、1~1,000 冊が 50% (14 館) を占めている。公立 (29 館) では、62% (18 館) が 0 冊、1~1,000 冊が 38% (11 館) であった。私立 (224 館) では、63% (141 館) が洋貴重書を所蔵しており、48% (108 館) が 1~1,000 冊である。国立大学では、約 9 割の大学が洋貴重書を所蔵している一方、公立大学では約 4 割の大学でしか所蔵しておらず所蔵冊数も少ない。私立大学は約 6 割が所蔵しているが、その 4 分の 3 を 1~1,000 冊が占めており、国立と比べ、1,000 冊以上の所蔵大学数の比率が低い傾向にある。

1-2. コレクションの有無について

コレクションを有している大学は、全体 (283 館) のうち、33% (94 館) であった。所蔵冊数別に見てみると、1~1,000 冊が 57 館、1,001~5,000 冊が 19 館、5,000~1 万冊が 11 館、1 万冊以上が 6 巻である。所蔵冊数に比例してコレクションの所有率が高い傾向にある。

具体的なコレクション名について尋ねたの設問では、多種多様なコレクションを所蔵していることがわかった。また、本会の HP でのリンクが可能である、インターネット公開が可能なコレクションについて尋ねた設問では、27 館からご協力をいただいた。今後の調査・研究等に役立つことを期待したい。

1-3. 洋貴重書の収蔵施設について

収蔵場所として最も多いのは、貴重書庫またはそれに準ずる書庫、それに続いて閉架フロアの区画がとなった。中には洋貴重書を所蔵しつつ、「特になし」と回答した館が私立で 9 館あり、一般図書との混配が考えられる。その他の回答には、展示用のケースや書架に収蔵している、カウンターの一画、専用の建物があった。

1-4. 洋貴重書の担当者 (整理・利用等) について

担当者は、専任職員 (専属) が 20% (57 館)、専任職員 (兼任) が 17% (49 館)、その他

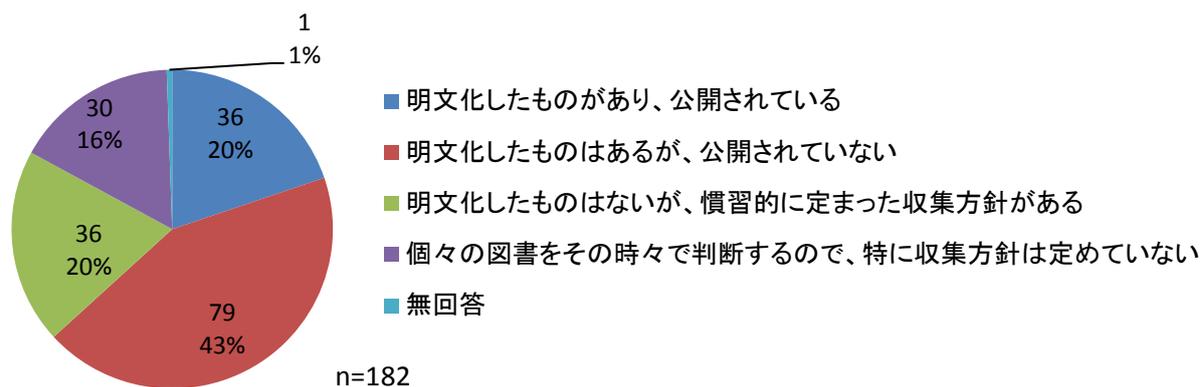
(嘱託、非常勤、派遣等)が21%(59館)、担当者はいないが42%(117館)となった。所蔵冊数別と合わせてみると専任が少なく、所蔵数が少ない館ほど担当者がない傾向である。担当者がある場合は、その他(嘱託、非常勤、派遣等)が最も多い。国立は公立・私立に比べて担当者が配置されている比率が高く、専任職員が担当している比率が56%(23館)にのぼる。一方で、所蔵しているが担当者がない館が59館あった。

2. 収集について

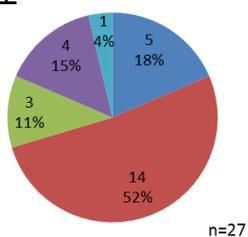
2-1. 一般図書の収集方針・選書基準について当てはまるものをお選びください。

明文化したものがあり、公開されている	36 館
明文化したものはあるが、公開されていない	79 館
明文化したものはないが、慣習的に定まった収集方針がある	36 館
個々の図書をその時々で判断するので、特に収集方針は定めていない	30 館
無回答	1 館

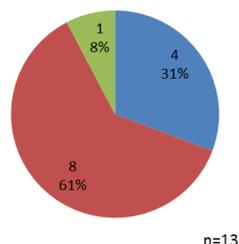
国公立 全体



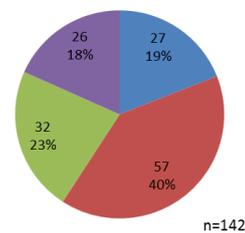
国立



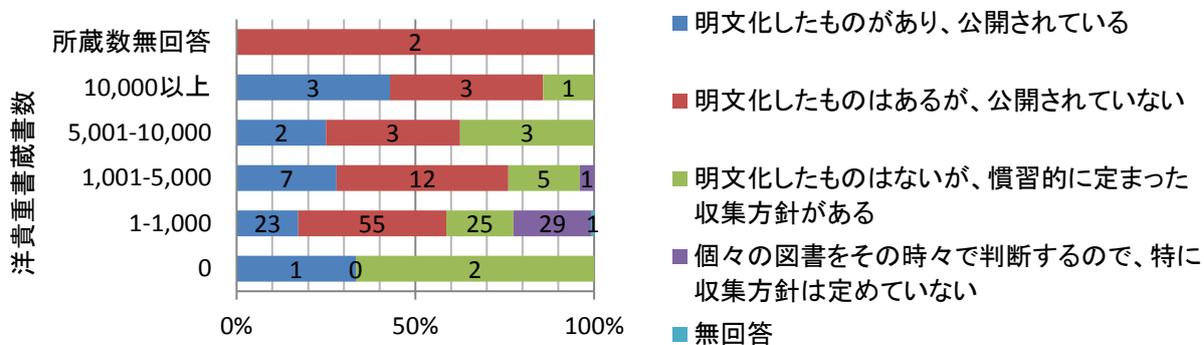
公立



私立



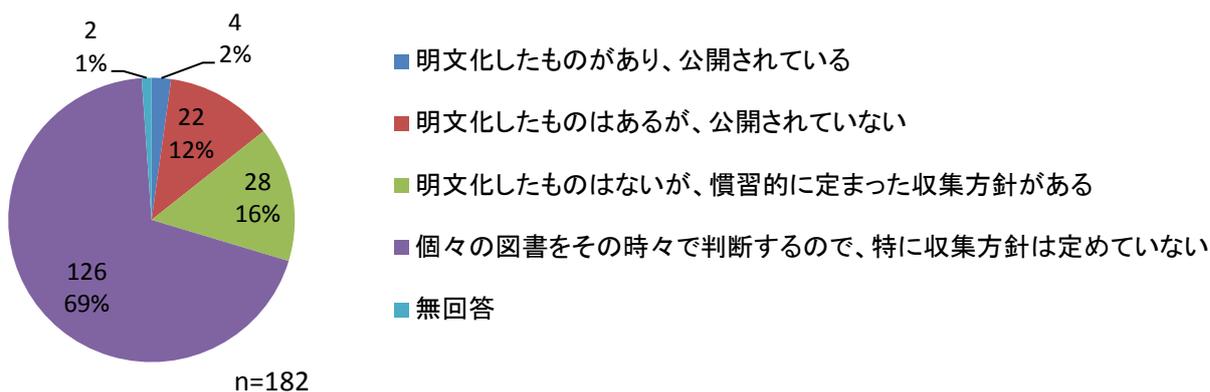
国公立 全体



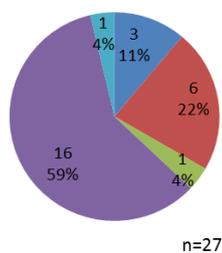
2-2. 洋貴重書の収集方針・選書基準について当てはまるものをお選びください。

明文化したものがあり、公開されている	4 館
明文化したものはあるが、公開されていない	22 館
明文化したものはないが、慣習的に定まった収集方針がある	28 館
個々の図書をその時々で判断するので、特に収集方針は定めていない	126 館
無回答	2 館

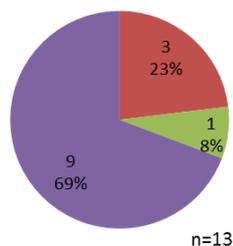
国公立 全体



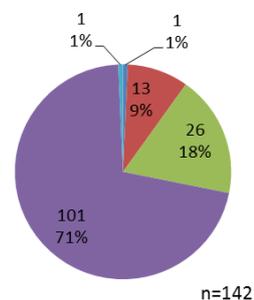
国立



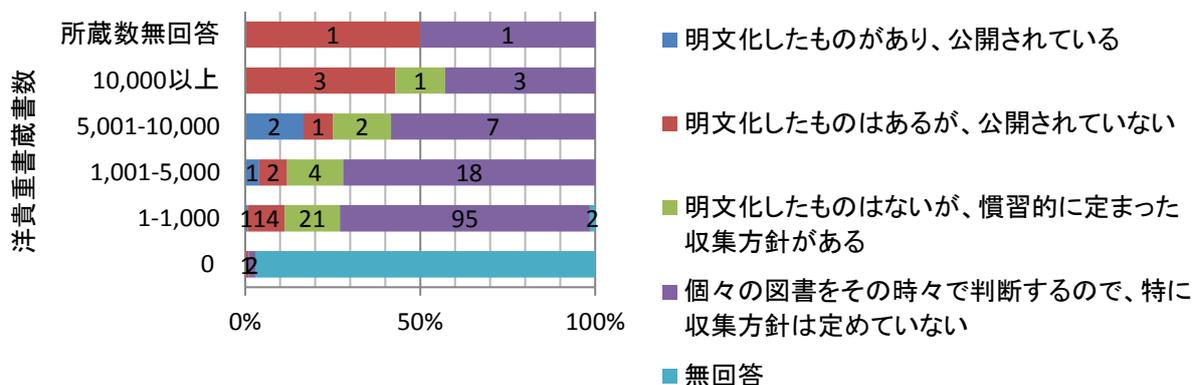
公立



私立



国公立 全体



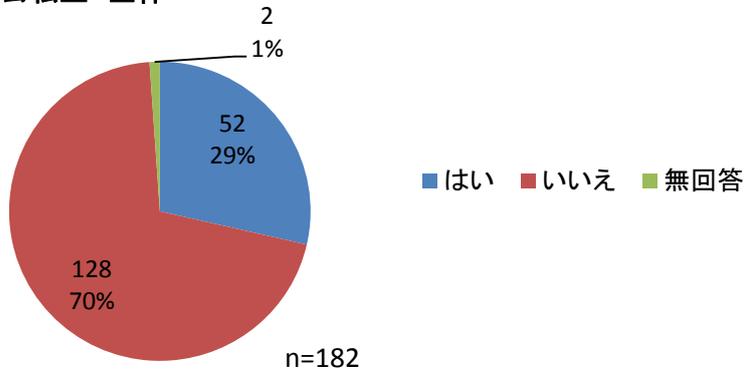
2-3-1. 洋貴重書の収集について年代・その他による基準（区分）を設けていますか。

はい 52 館

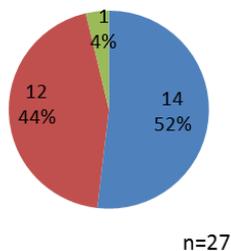
いいえ 128 館

無回答 2 館

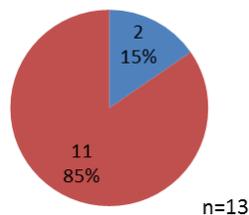
国公立 全体



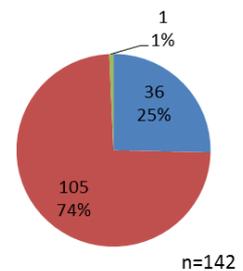
国立



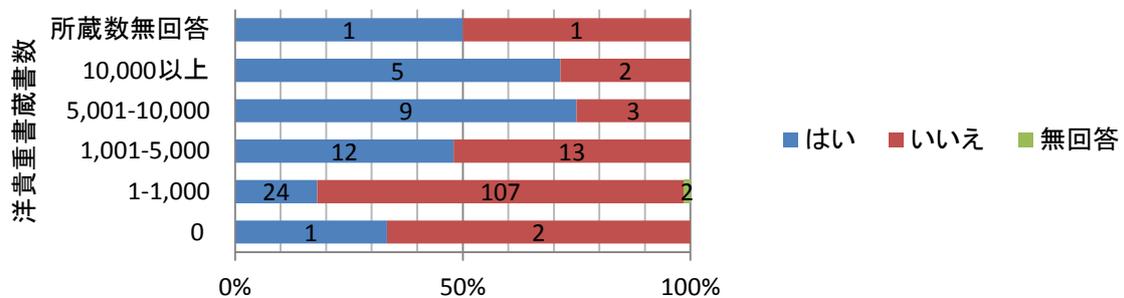
公立



私立



国公立 全体



2-3-2. 「はい」の場合は、どのような基準でしょうか。簡単で結構ですので、ご記入ください。

	国立		公立		私立	
年代	14	52%	2	15%	34	24%
名著	0	0%	0	0%	1	1%
記載なし	0	0%	0	0%	1	1%
	国立		公立		私立	
1600以前	1	4%	0	0%	1	1%
1601-1700	4	15%	1	8%	5	4%
1701-1800	4	15%	0	0%	7	5%
1801-1900	5	19%	0	0%	18	13%
1901以降	0	0%	0	0%	1	1%
年代記載なし	0	0%	1	0%	2	1%
合計	14	100%	2	100%	34	94%

	国立		公立		私立	
1820年前後	1	7%	0	0%	3	9%
1850年前後	4	29%	0	0%	10	29%

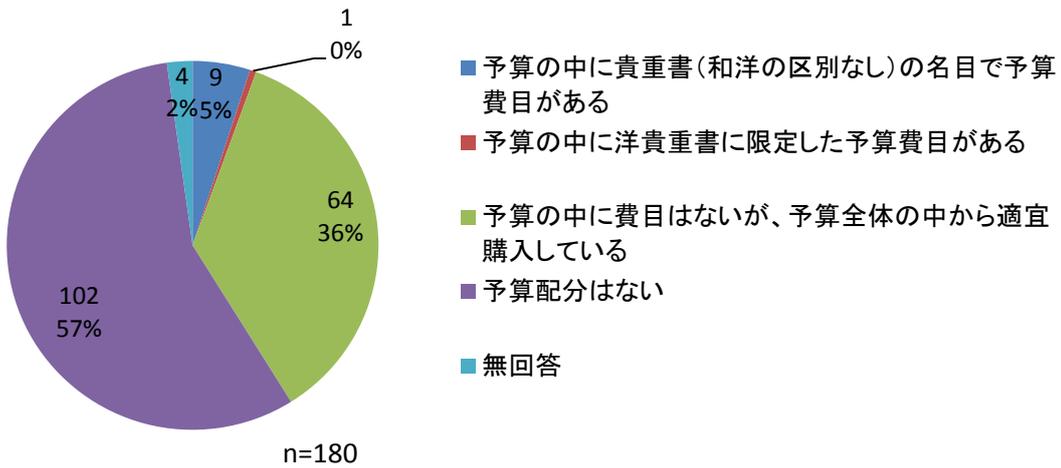
国立	a 1500年代までに印刷されたもの
	b 1600年代以後に印刷されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの
	c 名家自筆の稀本及び書簡の類
	d 写本(cに掲げるものを除く)のうち、特に資料的価値があると認められるもの
	e 図画等のうち、資料的又は芸術的価値があると認められるもの
	a 1600年代までに印刷されたもの
	b 1700年代までに印刷された、日本および東洋に関するもの等
	「貴重書」とするものは17世紀以前に印刷されたもの
	a 1700年以前の一般古刊本、西洋の古写本
	b 1701年～1800年までの刊本、写本
	a 貴重図書の指定基準：洋書は1800年以前に書写または印刷されたもの
	b 準貴重図書の指定基準：洋書は1900年以前に書写または印刷されたもので希少価値、資料的価値又は芸術的価値において貴重図書等に次ぐものと認められるもの
	a 1700年代までに印刷されたもの
	b 1800年以降に印刷されたもののうち資料的価値があると認められるもの
	1750年以前に印刷・書写されたもの
a 1800年以前に刊行されたもの	
b もしくは特に希少価値、学術的価値、芸術的価値があると認められるもの	
a 1800年以前に印刷・書写されたもの	
b 1801年以後に印刷・書写されたもので、伝本の少ないものや名家の書き入れ等があり、資料的価値の高いもの	
a 1820年以前に刊行されたもの	
b a1に属さないもので、特に希少価値、資料的価値、芸術的価値があると認められるもの	
a 1850年以前に印刷されたもの	
b 1850年以後に印刷されたもののうち、特に資料的価値のあるもの	
1850年以前に出版もしくは作成された洋資料	
a 1850年以前の刊行資料	
b または学問的価値が高いものや入手が困難で希少価値が認められる資料	
a 1850年以前に作られた写本、刊本	
b 1851年以後に作られたものにあつては資料的、芸術的価値の高い希本	
公立	年代で区別している
	1700年以前の刊本及び写本
	原則、16世紀以前のもので、状態の良いもの
	a 17世紀以前のもの(～1699)
	b 18世紀以後のもので資料的価値があると認められるもの(1700～)
	a 貴重書と準貴重書に大別、洋貴重書は17世紀以前(1699年以前)のもの
	b 準貴重書は時代的には貴重書に含まれないが、印刷または書写されたもので、貴重書に準ずる資料的価値があるものや限定本(洋は300部以内)など
	a 17世紀本
	b a以後のものは選別または、抽出によって採定を行う(但し、宗教・東洋関係書等蔵書傾向に合わせる分野においては、18世紀に属するもの以前は悉く、その後は選別または抽出する)
	c 写本
	17世紀以前に印刷されたもの ほか
	a 貴重書は1700年以前
	b 準貴重書は1701年以降1800年以前
	a 1799年以前に印刷されたもの
	b 1800年以後に印刷され、資料的価値が高く希少と認められるもの
	c 日本および東洋関係図書のうち、資料的価値が高く希少と認められるもの
	ア)貴重書：18世紀以前に刊行されたもの
	イ)準貴重書：ア)に掲げるものの他、伝本が少なくかつ資料的価値があると認められるもの
	18、19世紀出版の西洋古典籍
	18世紀末までの刊本
	1800年以前
	a 1800年以前に刊行された洋書
	b 正保(1647年)以前に刊行された和書を貴重書として認定する
	1800年以前刊行のものを貴重書の基準としている
	洋書のうち1820年以前の出版物
	1821年よりも前に出版された図書
	AAQR2の基準により1821年以前に出版されたもの
	a 1850年代までに印刷されたもの
	b 1850年以降に印刷されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの
	1850年以前に刊行されたもの
	1850年以前刊行図書
	a 法律関連図書は1750年以前
	b その他は1850年以前に刊行のものとしている
	1850年以前
	1850年以前のもの及び手稿類
	1850年以前に書写及び印刷されたもの
	それ以後であっても、特に資料的価値が高く、希少なものと認められたもの
	年代(1850年以前)
	a 1850年以前に出版された資料は貴重書扱い
	b 本学院創設に関わる資料については出版年を問わず貴重書扱いとする
	1852年以前刊行
	洋書(西洋古版本)は、1870年以前の刊本、及び写本で稀観書に相当すると判断されたもの
	1870年刊行まで
	1800年代
	西暦1900年以前に書写・印刷された洋書・記録・文書および手原稿
	19世紀半ばまで
	a 出版年が100年以上前である
	b 出版年に関わらず史料の価値があるか入手困難である
	価格、刊行年代
	内規に年代等が明記されている
	15世紀に発明された活版印刷術によって人類の発展に寄与した名著を収集する
私立	

2-4. 洋貴重書の予算について当てはまるものをお選びください。

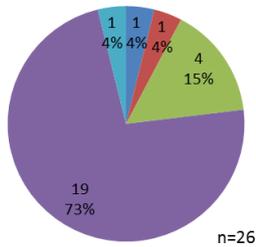
予算の中に貴重書（和洋区別なし）の名目で予算費目がある
 予算の中に洋貴重書に限定した予算費目があり
 予算の中に費目はないが、予算全体の中から適宜購入している
 予算配分はない
 無回答

9 館
 1 館
 64 館
 102 館
 4 館

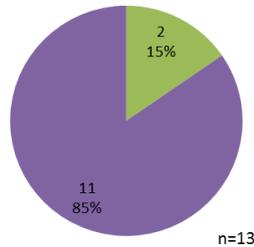
国公立 全体



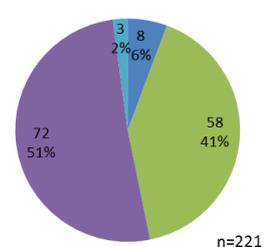
国立



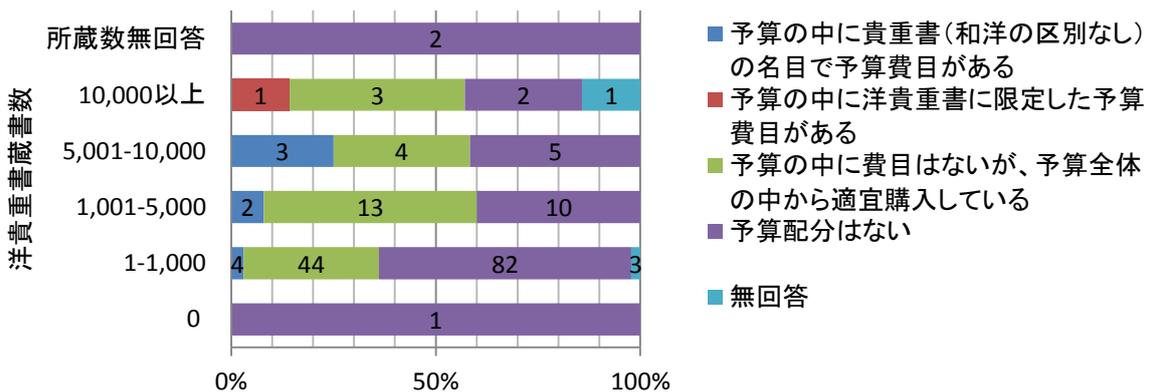
公立



私立



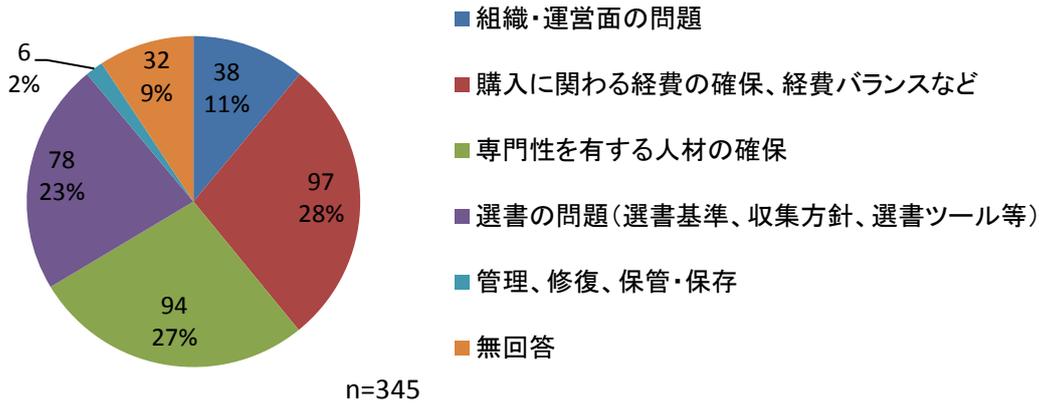
国公立 全体



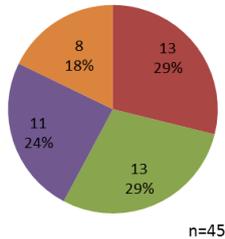
2-5. 洋貴重書の収集について何か問題や課題はありますか。(複数回答可)

組織・運営面の問題	38館
購入に関わる経費の確保 or 雑誌価格高騰の中での貴重書の収集とのバランス	97館
専門性を有する人材の確保	94館
選書の問題(選書基準、収集方針、選書ツール等)	78館
管理、修復、保管・保存	5館
無回答	32館

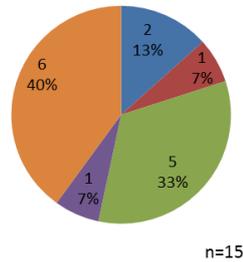
国公立 全体



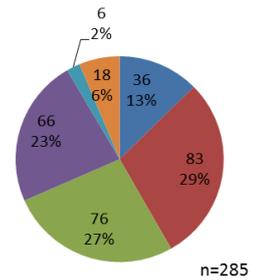
国立



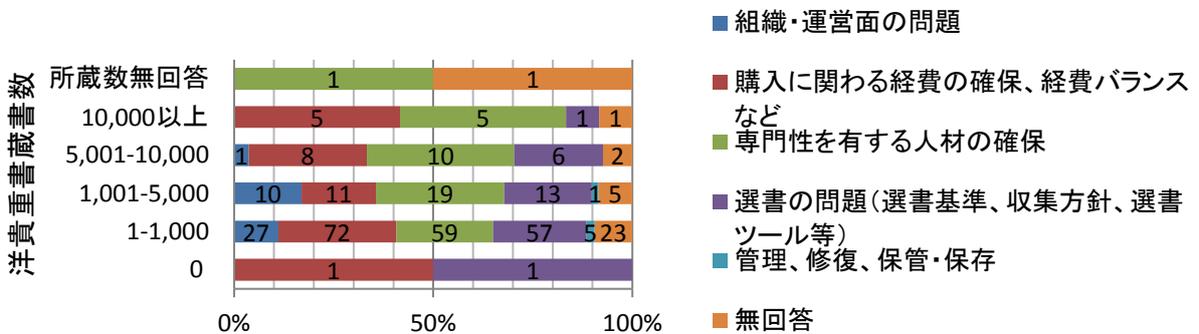
公立



私立



国公立 全体



収書について

2-1 一般図書における収集方針と選書基準についての設問（選択）

回答があった182館のうち、国公立大学全体としても、63%（115館）が収集方針・選書基準を明文化している。そのうちの20%（36館）はその収集方針・選書基準を公開している。さらに明文化せずとも慣習的に定まった収集方針を持つ機関も20%（36館）あることを合わせるならば、83%（151館）がなんらかの収集方針・選書基準を持ち、それを元に選書を行い、蔵書構成の一部を成していることになる。そして、収集方針を定めず、その時々で判断とするのは16%（30館）に過ぎない。設置母体別にみても、国立大学が81%（12館）、公立大学が100%（13館）、私立大学82%（116館）と設置母体別の差はほぼみられず、各機関ともほぼ整備されていることが判明した。

選書は図書館業務において蔵書構築を考える上で基本業務でもある。収集方針や選書基準はそのための指針である。上記の結果からきちんと整備された上で業務が遂行されていることがうかがい知れる。指針を明確にするということの背景には各機関において図書館司書という専門職員の確保の困難さ、人事異動、図書館業務のアウトソーシングの浸透、などさまざまな事情が存在しているのではないだろうか。つまり、この収集方針や選書基準が整備されていない場合は業務遂行に支障をきたすことが当然のごとく考えられる。それがこの高い割合となる最大の要因となるのではないだろうか。

2-2 洋貴重書における収集方針と選書基準についての設問（選択）

洋貴重書の場合、国公立大学全体としても、収集方針・選書基準を明文化しているのは14%（26館）のみであり、明文化せずとも慣習的に定まった収集方針を有する館を合わせても30%（54館）に留まる。そして、69%（126館）が個々の判断としている。なおかつ、公表しているのは2%（4館）でしかない。蔵書数別にみると、当然のことではあるが、蔵書数が増加するに比例して明文化が進んでいる。設置母体別でみると、国立大学は33%（9館）、公立大学は23%（3館）が明文化しているのに対して、私立大学は10%（14館）のみである。慣習的に定まった収集方針があるとする機関を足しても、国立大学は37%（10館）、公立大学は31%（4館）、私立大学は28%（40館）でしかない。

一般図書における収集方針、選書基準が8割以上の機関で整備されていることに対して、洋貴重書における収集方針、選書基準が3割しか整備されていない状況はあまりにも低い状況といえるだろう。そして、一般図書と反比例するかのような69%（126館）の機関がその時々での判断としている。しかし、この背景には洋貴重書の各機関における位置付けが大きく関わっているのではないだろうか。また、一般図書が様々な図書館を取り巻く環境を危惧して、収集方針と選書基準が整備されているならば、この洋貴重書こそ、整備されるべきなのではないだろうかと憂慮する。しかし、現実的に難しい面も併せ持つことでもあるのではないだろうかとも考える。

1999年の調査において、明文化している機関の実数は割り出せていないが、「今後、個人の資質や経験に頼れなくなることと想定すると、収書方針を明文化することは必須であると思われる。」と考察を締めくくっているが、果たして、この3割程度の整備状況で、1999年の調査時から20年ほど経過した現在、整備されたといえるだろうか。整備されたとは言えない状況なのではないだろうか。とするならば、洋貴重書の各機関における位置付けも厳しい状況下にあるのではないかと推測する。

2-3-1 洋貴重書に関しての具体的な基準（区分）の設置についての設問（選択）

国公立大学全体としても、基準を設けているのは29%（52館）のみである。

設置母体別にみると、国立大学が52%（14館）と半数の大学が基準（区分）を設置しているが、公立大学15%（2館）、私立大学25%（36館）でしかない。蔵書数別にみると、やはり蔵書数の増加に比例して、基準（区分）を設置していることが判明した。

では、その基準（区分）となるものは何か。基準（区分）を設置していると回答している機関のほとんどが年代を挙げている。そして、その年代においては、国立大学では1600年代、1700年代、1800年代とバラつきが見られるが、私立大学においては1800年代をもっとも多く機関が基準（区分）として設定している。とりわけ、国立大学、私立大学ともに29%の機関が

「1850年」（前後2年を含む）を設定している。

しかし、この基準（区分）は年代だけではなく、各機関がなにを重要とするか、なにを特色としているかという機関ごとのコレクションの構築の基礎となりえる要素を多く含むことであり、蔵書構築等が大きく影響していることがうかがえる。

1999年の調査と変わらない回答結果であった。つまりは洋貴重書において、年代を基準（区分）に据えることは図書館員にとって、明確な指標であり、普遍的なものであるのだろう。

2-4 洋貴重書の予算についての設問（選択）

国公立大学全体としても、洋貴重書に限定した予算費目を持っている館は1%にも満たず（国立大学1館のみ）、和洋を区別せずとも5%（9館）に留まり、36%（64館）が確立した予算費目はなく適宜購入している。しかし、半数以上の57%（102館）が予算配分はないと回答している。

1999年の調査では8%（21館）が予算化していたことと比較すると、予算化している館が5%（9館）と減少していることが判明した。

洋雑誌の高騰が問題となっている昨今、資料費に締める学習用の資料への予算配分も苦慮する機関もあるだろう。そうしたなかで、ある意味、お宝的な洋貴重書は優先順位が下位とならざるを得ず、配分する予算となると厳しいのが現実かもしれない。

2-5 洋貴重書の収集における問題点や課題についての設問（選択 複数回答可）

各問題点、課題の設問に対して、国公立大学全体としても、各機関回答がバラつきはあるが、そのなかでも購入に関わる経費の確保、経費のバランスなどが28%（97館）であるのと共に専門性を有する人材の確保が27%（94館）であり、続いて選書の問題が23%（78館）との回答が多い。蔵書数別では、蔵書数が少ない機関ほど、より多くの問題を抱えていることが判明した。

1999年の調査では「専門知識」が「予算」の半数以下であったことを考えると、この20年弱で「専門性」がより重要視されるようになったのではないかと考えられ、知識を持った職員の減少が影響していると推測できる。そして、その裏には人事異動、アウトソーシングなどの問題が介在しているのではないかとと思われる。

また、一方で「近年、図書館で洋貴重書を購入することはない」、「ほとんど収集していないに等しいので特に問題はない」、「学部構成の変更により、購入・収集の予定はない」という記述も散見された。これは確実に洋貴重書の各機関での位置付けが低くなっていることを示唆していると推測できる。

大学図書館の資料収集において、やはり、優先すべきことは学生用の学習用、教員の研究用資料であることは否めない。限られた資料費において、追い討ちをかけるように昨今は洋雑誌の価格高騰がある。それがいまの大学図書館の資料費を取り巻く「現実」だろう。そうしたなかで、洋貴重書の収集において、一言でいうならば、予算的にも専門知識的にも「厳しい」現状にある。それが一般図書に比較して収集方針と選書基準の明文化を遅らせている一因かもしれない。

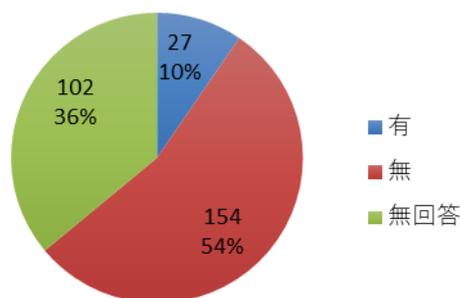
しかし、もし、専門知識があれば、予算確保につながる何かがあるかも知れない、また、各機関の特色をこの洋貴重書で打ち出せるかも知れないという「理想」を思い描いてしまう。ただ、実際問題として、専門職として図書館職員の固定がない限り、自校内での専門知識の習得・継承はなかなか困難なことである。そこで、各機関、各大学図書館が協同で知識構築できる機会があるならば、少しずつでも前進していけるのではないだろうか。

3. 洋貴重書の選書・購入について

3-1-1. 洋貴重書の購入選定(基準)あるいは貴重書指定のための機関はありますか

あり 27 館 なし 154 館 無回答 102 館

選定機関の有無



3-1-2. 「あり」の場合、それはどのような機関ですか

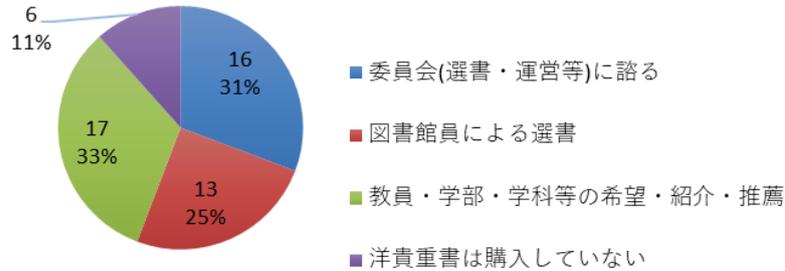
国立	社会科学古典資料センター
	研究開発室
	図書館サービス委員会
	附属図書館運営委員会
	図書館委員会(図書館長及び各学部からの代表で構成)
	図書館(必要に応じて図書館委員会に諮る、教員に意見を求める)
公立	貴重図書特別部会(教員による委員会)
	学術情報センターキャンパス運営委員会
私立	稀観書評価委員会
	特別資料選定分科会
	学校法人●●●●貴重書等運用管理委員会
	選書部会
	館内専任職員で構成する委員会
	大学図書委員会
	図書選定委員会、図書館運営委員会
	図書館運営委員会、常務理事会(金額による)
	図書委員会(2館)
	学術情報センター運営委員会(2館)
	図書館委員会(館長、事務長、各学部等の図書委員で構成)

	図書館委員会、選定委員会
	図書館委員会
	図書館
	学術情報センター(図書館)
	貴重書洋書掛

3-2. 洋貴重書の選書はどのように行なっていますか（複数回答可）

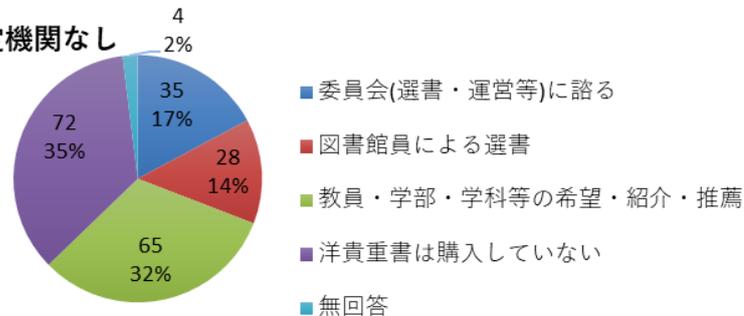
選定機関あり	委員会(選書・運営等)に諮る	16 館
n=52	図書館員による選書	13 館
	教員・学部・学科等の希望・紹介・推薦	17 館
	洋貴重書は購入していない	6 館
	無回答	0 館
選定機関なし	委員会(選書・運営等)に諮る	35 館
n=204	図書館員による選書	28 館
	教員・学部・学科等の希望・紹介・推薦	65 館
	洋貴重書は購入していない	72 館
	無回答	4 館

選定機関あり



n=52,複数回答あり

選定機関なし

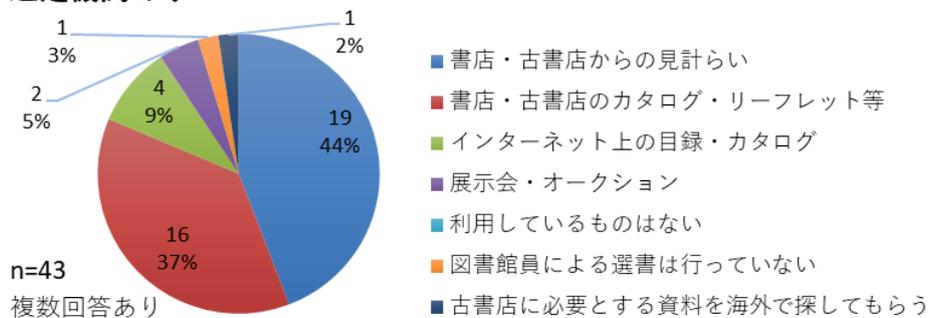


n=204,複数回答あり

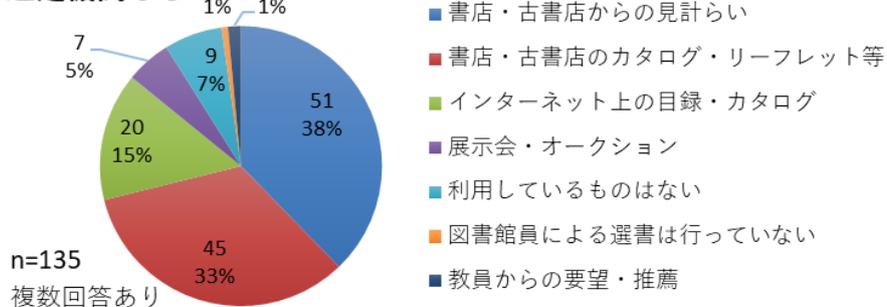
3-3. 図書館員が洋貴重書を選書する場合の選書ツール・情報について当てはまるものをお選びください（複数選択可）

選定機関有	書店・古書店からの見計らい	19 館
n=42	書店・古書店のカタログ・リーフレット等	16 館
	インターネット上の目録・カタログ	4 館
	展示会・オークション	2 館
	利用しているものはない	0 館
	図書館員による選書は行っていない	1 館
	古書店に必要とする資料を海外で探してもらう	1 館
	(その他・自由記述)	
選定機関無	書店・古書店からの見計らい	51 館
n=135	書店・古書店のカタログ・リーフレット等	45 館
	インターネット上の目録・カタログ	20 館
	展示会・オークション	7 館
	利用しているものはない	9 館
	図書館員による選書は行っていない	1 館
	教員からの要望・推薦	2 館

選定機関あり



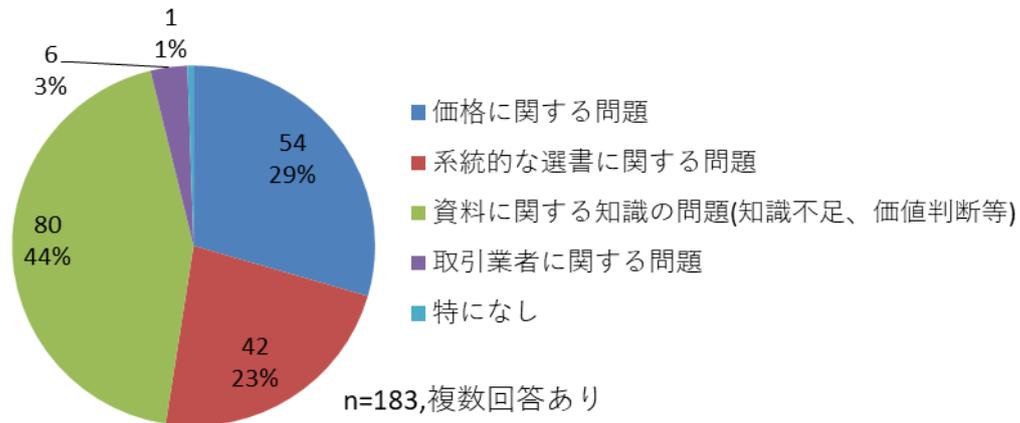
選定機関なし



3-4. 洋貴重書の選書について、課題や問題点はありますか（複数回答可）

全体	価格に関する問題	54 館
n=183	体系的な選書に関する問題	42 館
	資料に関する知識の問題(知識不足、価値判断等)	80 館
	取引業者に関する問題	6 館
	特になし	1 館

課題・問題点



<その他（自由記述）>

購入後の展示等による教育効果等の予測（1 館）

テーマ、収集対象の選定の確立（1 館）

選書・購入について

3-1-1. 洋貴重書を選定する機関の有無を問う設問である。

洋貴重書を選定するための機関があるのは、貴重書を所蔵している図書館のうち、10%の27館に過ぎなかった。選定機関のある割合が高いのは国立大学で、21%(6館)である。私立大学では8%(19館)、公立大学では7%(2館)と、10%を割る結果となった。

3-1-2. 選定機関がある場合にどのような機関かを具体的に記述してもらう問である。

回答は27館から寄せられた。大きく分けて、次の3種類の機関にまとめられる。

- ・貴重書に限定した選定機関とみられるもの
- ・図書全般についての選定機関とみられるもの
- ・図書館全般についての運営機関とみられるもの

貴重書を選定については、大学上層部や特別な委員会が組まれる場合もあることがわかるが、設置母体や所蔵規模による違いは特段見当たらなかった。

3-2. 洋貴重書の選書方法を問う設問である。

選書にあたっては、教員・学部・学科等の希望や推薦を受けること、図書館員が選んだ洋貴重書を委員会に諮って購入決定するというプロセスを経ることなどが一般的なようであった。

洋貴重書の選定機関がある図書館では、何らかの収書方針を持っており、選書の際には書店・古書店の見計らいやカタログ等のほか、ネット上のカタログを利用すること、展示会、オークションの利用など、多岐にわたるツールを利用していた。選定機関がない国公立では、図書館員は選書に関与せず、教員・学部・学科等の希望や推薦を受けるケースが多く、そもそも洋貴重書を購入していないことも多いことがわかった。一方、私立では、選定機関の有無にかかわらず、洋貴重書は購入されており、選書に図書館員がかかわるケースが一般的なようであった。

3-3. 選書のツール・情報源を問う設問である。

書店・古書店からの見計らいは、選定機関のある館で利用率が高い。選定機関のない場合には、見計らいは国公立でほとんど利用されておらず、私立で利用率が高くなっている。

書店・古書店のカタログ類は、選定機関がある館で利用率が高いが、選定機関がない場合でも見計らいに次ぐ利用率となっており、重要な情報源であることがわかる。一方で、イン

ターネット上のカタログ類は利用率が低く、前回調査では新しいツールとして注目されていたが、その後内容の充実を見なかったのか、より現物へのアプローチがしやすい見計らいや書店等のカタログ類がツールとしては選ばれているようである。

選定機関のある館では設置母体、所蔵規模を問わず何らかのツールを利用しているが、選定機関のない館では利用しているものがないとの回答が 9 館（私立のみ）からあがっている。このうち 8 館は特に定まった収書方針を持たず、予算配分がないか、貴重書の費目がなく、予算全体の中から適宜充当すると回答した館であった。中には洋貴重書のコレクションがあると回答した 2 館が含まれており、どのようにしてコレクションを構築したのか、気になるところである。

展示会・オークションの利用や、古書店に必要とする資料を海外で探してもらう、などの方法をとっている積極的な館も見受けられるが、少数派であった。

3-4. 選書についての課題・問題点を問う設問である。

設置母体、所蔵規模、選定機関の有無にかかわらず、資料に関する知識の問題（知識不足、価値判断等）は共通の悩みとなっており、全体の 60%を占める。次に現れる悩みとして、選定機関の有無にかかわらず、系統的な選書に関する問題と価格に関する問題が高い比率を占めていた。系統的な選書を維持していくことがいかに困難かということがわかる結果ではないだろうか。価格の問題が上がってきているのは、コレクションの維持に必要な予算措置が不十分であるということも背景となっているのかもしれない。

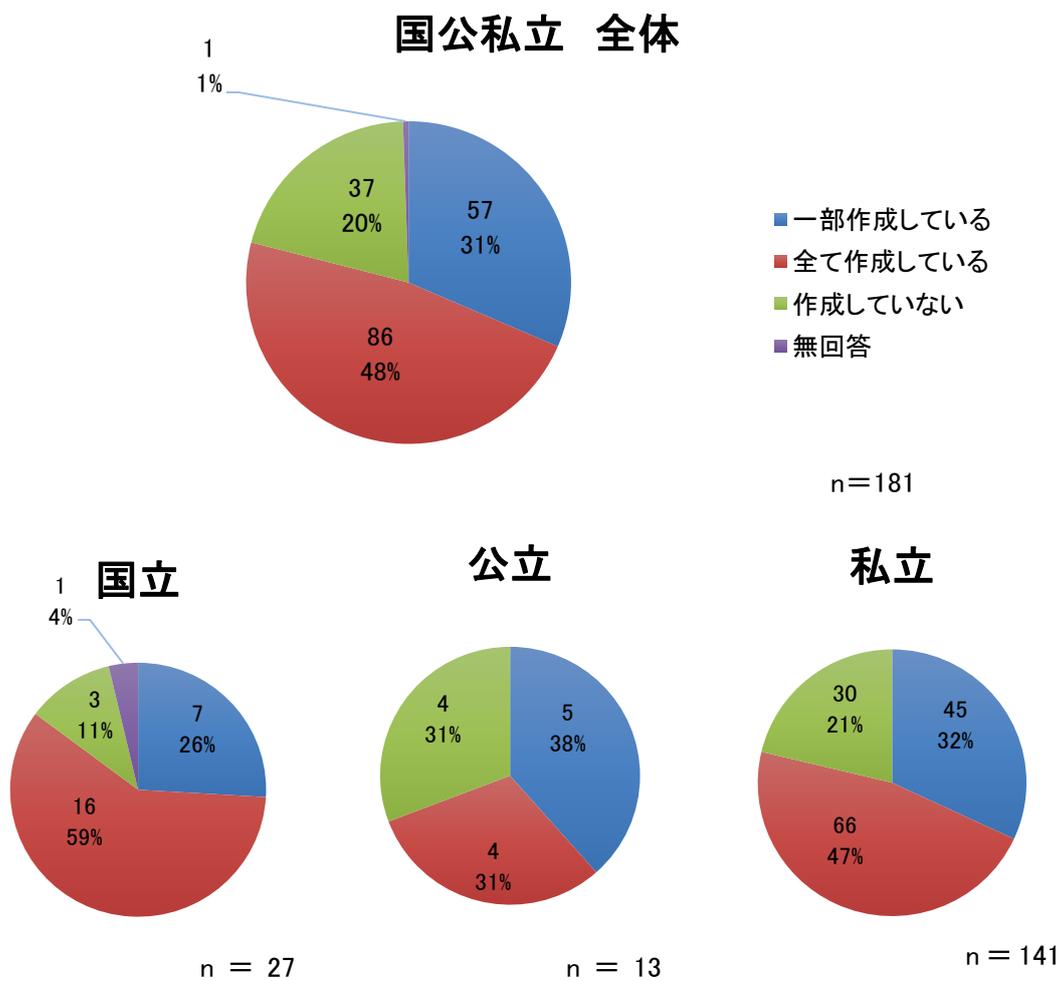
各館の予算について見てみると、費目を問わず、何らかの予算措置があるのは、選定機関のある 27 館中、16 館（60%）、選定機関のない 154 館中、58 館（38%）であった。前回調査の 21 館（8%）と比べるため、今回調査での回答を貴重書の予算費目があるものだけに絞ると、10 館（4%、うち国立 2 館、私立 8 館）となり、半減していることがわかった。

自由記述で、購入後の展示等による教育効果等の予測が難しいことをあげた館（私立・所蔵規模 1-1000、選定機関あり）があった。図書館予算の逼迫が恒常化した今日では、費用対効果の問題は大きな悩みであり、洋貴重書についても例外ではないことの重要な示唆と言えるであろう。

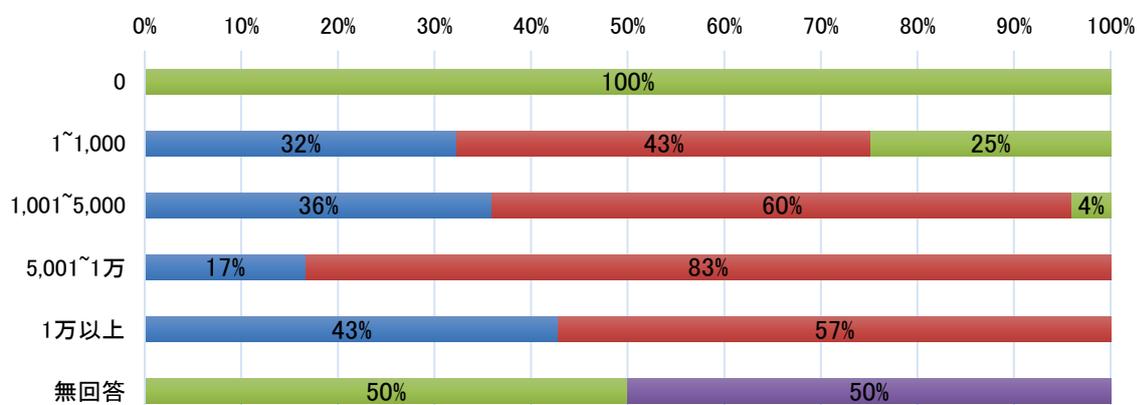
4. 整理について

4-1. 洋貴重書の目録を作成していますか。

一部作成している	57 館	全て作成している	86 館
作成していない	37 館	無回答	1 館



国公立 全体(洋貴重書所蔵数別)



n=181

4-2. 洋貴重書の目録データ作成の担当者について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

専任職員(専属)	44 館	専任職員(兼任)	44 館
その他(嘱託、非常勤、派遣等)	82 館	担当者はいない	23 館
無回答	29 館		

4-3. 洋貴重書の目録規則について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

AACR	5 館	AACR2	80 館
NII コーディングマニュアル	118 館	館作成の独自規則	15 館
その他	10 館	無回答	0 館

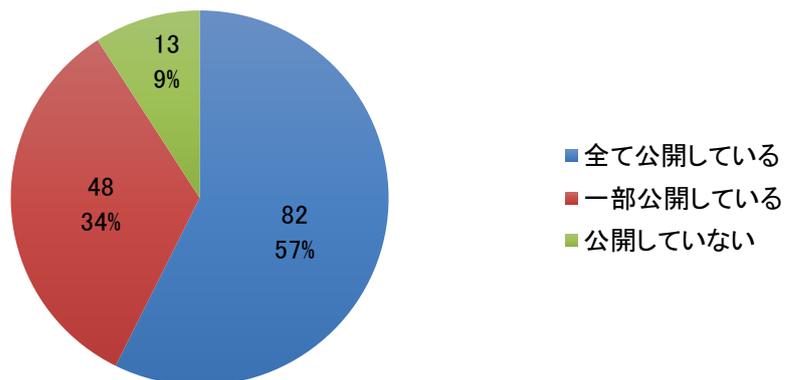
<その他(自由記述)>

- ・稀観書の書誌記述(4 館)
- ・Descriptive Cataloging of Rare Materials (Books)(3 館)
- ・RDA(2 館)
- ・NCR(1 館)

4-4. 洋貴重書の目録データをインターネット上（OPAC等）で公開していますか。

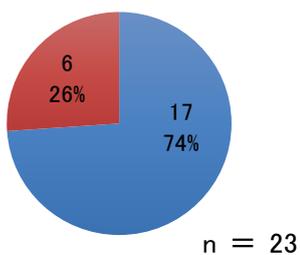
全て公開している	82館	一部公開している	48館
公開していない	13館	無回答	0館

国公立 全体



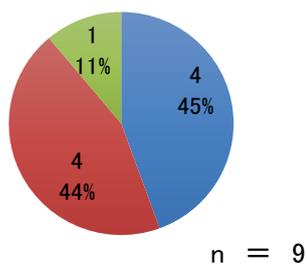
n = 143

国立



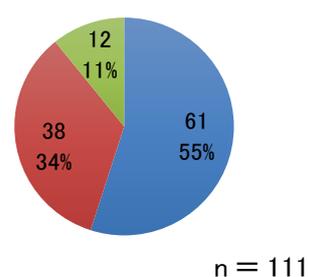
n = 23

公立



n = 9

私立

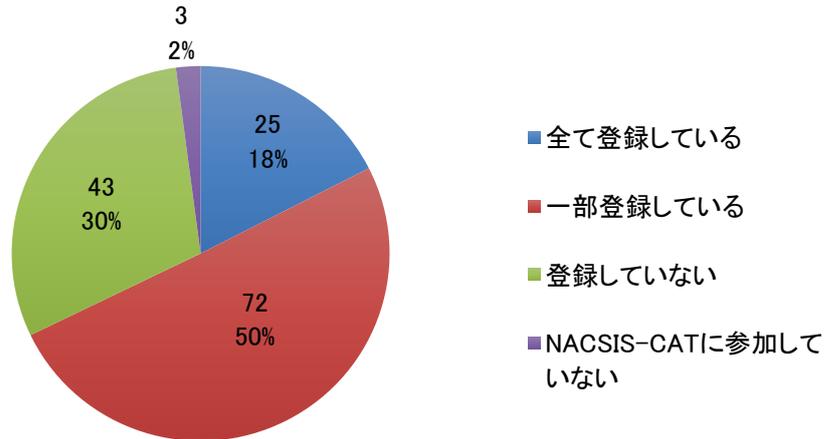


n = 111

4-5. NACSIS-CATにて洋貴重書の書誌および所蔵登録を行なっていますか。

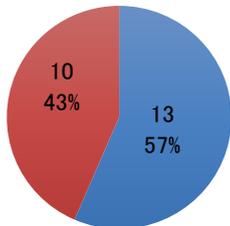
全て登録している	25 館	一部登録している	72 館
登録していない	43 館	NACSIS-CATに参加していない	3 館
無回答	0 館		

国公立 全体



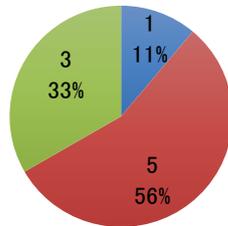
n = 143

国立



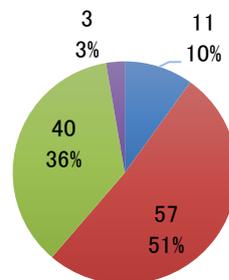
n = 23

公立



n = 9

私立



n = 111

4-6. 洋貴重書を検索・整理する際に参照するデータベース等について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

ユニオンカタログ	11 館	ESTC	13 館
WorldCat	83 館	LC	78 館
BL	68 館	ISTC	9 館
COPAC	25 館	特に利用しているものはない	30 館
その他	19 館	無回答	3 館

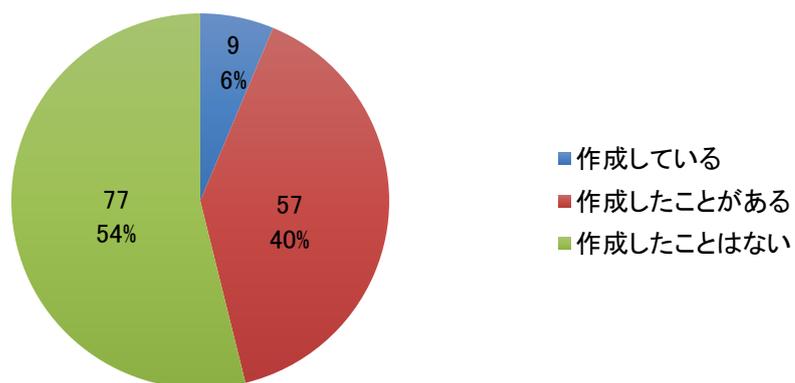
<その他（自由記述）>

- 各国の国立図書館の OPAC (BnF, DNB) (4 館)
- ECCO や EEBO などの全文 DB (2 館)
- Karlsruhe Virtual Catalog (2 館)
- 海外の大学図書館の OPAC (Leiden Univ., Amsterdam Univ.) (2 館)
- The Eutopean Library (1 館)
- Gallica、HathiTrust 等の画像データベース (1 館)
- Halkett&Laing 等の匿名辞典等 (1 館)
- Lib-Web (1 館)
- NACSIS-CAT (1 館)
- NLM LOCATORplus (1 館)
- STC、Wing、Goldsmiths'-Kress 等の代表的な書誌類 (1 館)
- 各種個人書誌等多数 (1 館)
- 業務委託のため不明 (1 館)

4-7. 洋貴重書を含む冊子体目録を作成していますか。

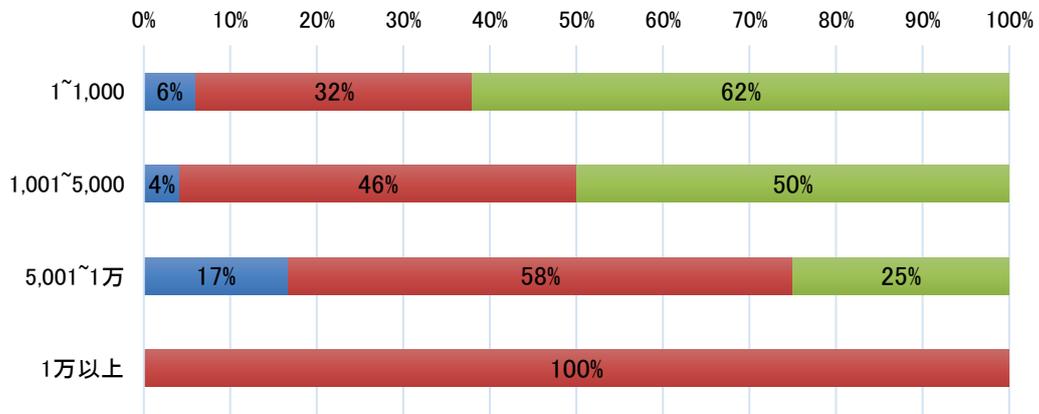
作成している	9 館	作成したことがある	57 館
作成したことはない	77 館	無回答	0 館

国公立 全体



n = 143

国公立 全体(洋貴重書所蔵数別)

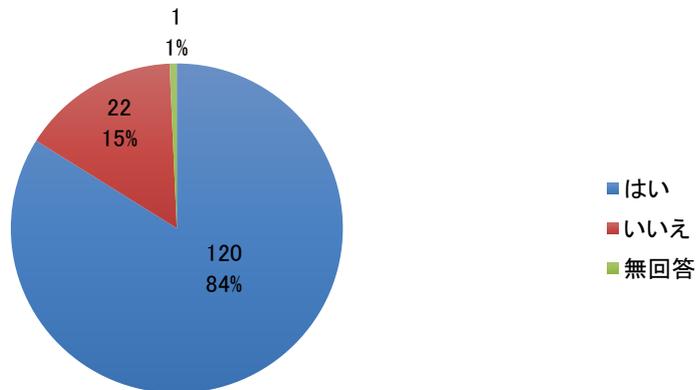


n = 143

4-8-1. 洋貴重書の整理について職員の研修が必要だと思いますか。

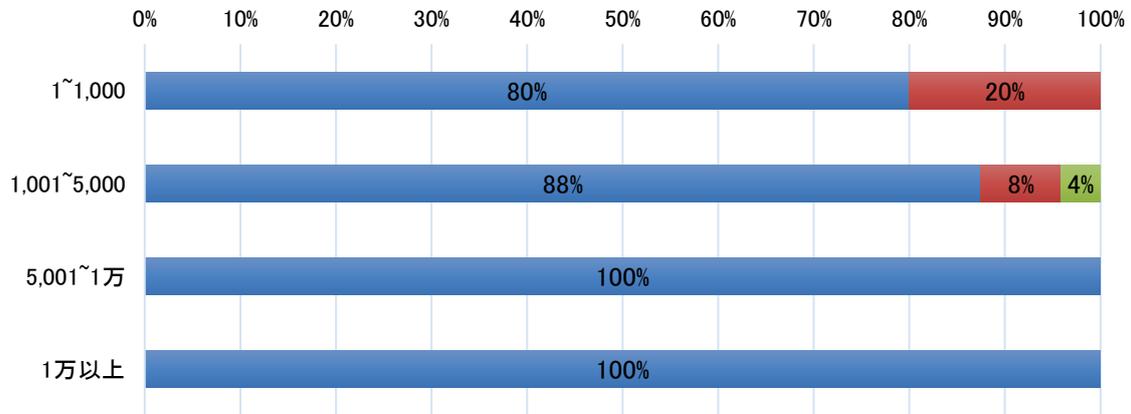
はい 120 館 いいえ 22 館 無回答 1 館

国公立 全体



n = 143

国公立 全体(洋貴重書所蔵数別)



4-8-2. 洋貴重書を整理する職員の研修について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

自館内の研修を受けている・受けたことがある	15 館
外部の研修を受けている・受けたことがある	49 館
オンデマンド形式の研修を受けている・受けたことがある	4 館
研修を受けていない・受けたことがない	80 館
その他	4 館
無回答	4 館

<その他(自由記述)>

- 洋貴重書の整理を委託している業者内で行っている (2 館)
- 自館内の作業引継ぎ程度 (1 館)
- 業務委託のため不明 (1 館)

4-9. 洋貴重書の整理について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

①専門知識を持った人材の育成・確保、館内体制に関する記述

- ・運営体制上、知識や経験を持った人材育成、確保が難しい
- ・限られた人員と時間とで、なかなか資料とデータの整理が進まない。担当職員が研修を受ける機会などを設けることが難しい状況である。

- ・ 解題など作成したいが、そうした専門性を有する人材がいない。

②知識・スキルの継承に関する記述

- ・ 目録担当も正職員は現在一人で、洋貴重書整理に関しては、研修の機会も参加する機会もなかなか無いため、知識不足な点。
- ・ 異動等により、知識や経験を蓄積できない。
- ・ 洋貴重書の整理できる人員が限られているが、受入数が多くないのでノウハウを伝授する機会が少ない。
- ・ 整理業務の外注化が進み、専任職員が激減しています。ベテラン職員（カタログガー）の定年退職後、貴重書の整理ができるのか心配です。

③マニュアル、指針の不足に関する記述

- ・ 和漢古書については、NCで書誌を作成するための基準がNIIにより整備されているが、洋貴重書については未だ整備されていない。当館では独自にNCで洋貴重書の書誌を作成するための規定を整備しているが、規定の維持に非常に労力がかかっている。NIIである程度の基準を整備するのが望ましいと考える。また、洋貴重書の書誌作成には専門知識が必要で、担当職員が変わった場合等の人材育成や引継ぎが大きな課題となっている。
- ・ NACSIS-CAT関連マニュアルに、和漢古書の取り扱い・解説やコーディングマニュアルのような指針が洋古書対象には存在しない。Descriptive Cataloging of Rare Materials (Books)の日本語訳が出ていないため、この規則があまり普及しない。

④装備方法に関する記述

- ・ 適切なラベルの添付の方法が不明。
- ・ 過去受入分については、現物に直接蔵書印、バーコード貼付等をしてしまっている。現在は、別紙におこない、別紙を現物にはさんでいる。
- ・ 貴重書であるが、一般図書と同様に蔵書印・受入印・館名印を押印することに躊躇いがある。

整理について

問.4 では、目録作成の有無、担当者、目録規則、公開状況、参照ツール、冊子体作成の有無、研修、課題・問題点を尋ねた。なお、問 4-2 以降は、問 4-1 で、洋貴重書の目録を「作成している」館（143 館）について分析を行った。

4-1. 洋貴重書の目録作成について問う設問である。

全体としては、洋貴重書の目録を「一部作成している」と回答した館が 31%（57 館）、「全て作成している」と回答した館が 48%（86 館）であり、約 8 割の図書館が目録を作成している。設置母体別でみると、目録を作成している（一部作成している、全て作成している）割合は、国立大学が 85%（23 館）と最も高かった。また、洋貴重書の所蔵数が多い大学ほど、目録を作成している割合が高い傾向にあり、特に 5,000 冊以上所有する大学では、目録を作成している割合が 100%に達していた。

洋貴重書の利用を促進するためには、各館が所蔵する洋貴重書を全て目録化することが望ましいだろう。しかしながら、先述のとおり、「全て作成している」と回答した館は 48%に留まっており、約 2 割の図書館（37 館）に至っては、目録を「作成していない」と回答している。洋貴重書の目録化が進まない背景には、問 4-9 で挙げられているように、「目録作成の知識を持った人材の育成・確保が困難」「知識の継承が難しい」といった課題が影響を与えていると思われる。

4-2. 洋貴重書の目録データ作成の担当者について問う設問である。

洋貴重書の目録データ作成を担当者として最も挙げられていたのは、「その他（嘱託、非常勤、派遣等）」57%（82 館）であった。その後、「専任職員（専属）」31%（44 館）、「専任職員（兼任）」31%（44 館）、「無回答」20%（29 館）、「担当者はいない」16%（23 館）の順で回答があった（複数回答可）。

『日本の図書館』によれば、2016 年の大学図書館の職員数に占める非常勤職員、臨時職員、派遣職員等の割合は、58%（7,933 人）になっている。近年、大学図書館の業務は、多くが非専任職員によって担われているが、洋貴重書の目録作成も例外ではないことが明らかになった。

4-3. 洋貴重書の目録規則について問う設問である。

洋貴重書も目録規則として最も挙げられていたのは、「NII コーディングマニュアル」83%（118 館）であった。続いて、「AACR2」56%（80 館）、「館作成の独自規則」10%（15 館）、「その他」7%（10 館）、「AACR」3%（5 館）という結果であった（複数回答可）。

「その他」で挙げられていた目録規則は、『稀観書の書誌記述』（4 館）、『Descriptive

Cataloging of Rare Materials (Books)』(3館)、『RDA』(2館)、『NCR』(1館)であった。そのうち、AACR2における初期刊本に関する規定を拡張した目録規則の『Descriptive Cataloging of Rare Materials (Books)』と『稀観書の書誌記述』を利用している館は、いずれも洋貴重書を5,000冊以上所蔵する大学図書館であった。これらの大学図書館は、洋貴重書をより詳細なレベルで書誌を記述するために、拡張規則を用いていると思われる。

4-4. 洋貴重書の目録データのインターネット上(OPAC等)での公開について問う設問である。

全体としては、洋貴重書の目録データをインターネット上(OPAC等)で、「全て公開している」館が57%(82館)、「一部公開している」館が34%(48館)、「公開していない」が9%(13館)という結果であった。

前回の調査(1999年12月)とは、設問文および調査対象が異なるため、単純比較はできないが、前回の調査ではOPACで公開している割合が37%であったのに対して、今回の調査では公開している割合(全て公開している+一部公開している)が91%であり、OPACによる目録データの公開が進んでいる。しかしながら、目録データの電算化が進んだ現在でも「全て公開している」館は、57%に留まっている。洋貴重書の所在を明らかにし、利用をより一層促進するためには、今以上に目録データをインターネット上で公開していく必要があるのではないだろうか。

4-5. NACSIS-CATへの書誌および所蔵登録について問う設問である。

全体としては、NACSIS-CATにて洋貴重書の書誌および所蔵登録を「全て登録している」が17%(25館)、「一部登録している」が50%(72館)、「登録していない」が30%(43館)、「NACSIS-CATに参加していない」が2%(3館)であった。問4-4において、OPAC等で目録データを「全て公開している」が57%、「一部公開している」が34%であったことと比較すると、大学図書館を中心とした総合目録データベースNACSIS-CAT上では、洋貴重書の書誌および所蔵登録は進んでいないと言える。

利用制限に関する設問(問5-2)の調査結果をみると、「館外貸出禁止」や「学外者の利用禁止」を挙げる館が多い。そのため、NACSIS-CAT上に書誌および所蔵登録を行なう必要性が低いと考えているのではないだろうか。

4-6. 洋貴重書を検索・整理する際に参照するデータベース等について問う設問である。

洋貴重書を検索・整理する際に参照するデータベース等として最も挙げられていたのは、「WorldCat」58%(83館)であった。続いて、「LC」55%(78館)、「BL」48%(68館)、

「特に利用しているものはない」21% (30 館)、「COPAC」17% (25 館)であった(複数回答可)。これらは、前回の調査(1999年12月)と同様の結果であった。しかし、今回の調査では、少数意見ではあるものの「The European Library」、「Hathi Trust」、「Gallica」といったデジタルアーカイブを挙げる回答があった。デジタルアーカイブの進展に伴い、海外のデジタルアーカイブが洋貴重書の検索・整理の際に参照されるようになったことがわかった。

4-7. 洋貴重書を含む冊子体目録の作成について問う設問である。

洋貴重書を含む冊子体目録を「作成している」館が6% (9 館)、「作成したことがある」が40% (57 館)、「作成したことはない」が54% (77 館)であった。目録データの電算化が当たり前になった現在では、冊子体目録の作成はあまり行われていないことがわかる。

なお、洋貴重書の所蔵数が多い大学ほど、冊子体目録を「作成している」または「作成したことがある」と回答した割合が高い傾向にあった。

4-8-1. 洋貴重書の整理に関する職員の研修の必要性について問う設問である。

「洋貴重書の整理について職員の研修が必要だと思いますか」との問いに対して、「はい」と回答した館が84% (120 館)、「いいえ」と回答した館が15% (22 館)、「無回答」が1% (1 館)であった。後述するとおり、問4-9において、「目録作成の知識を持った人材の育成・確保が困難」「知識の継承が難しい」といった課題が挙げられていることと併せて考えると、洋貴重書の整理に関する研修へのニーズは高いと言える。

なお、洋貴重書の所蔵数が多い大学ほど、「はい」と回答した割合が高い傾向にあった。

4-8-2. 洋貴重書を整理する職員の研修について問う設問である。

洋貴重書を整理する職員の研修として最も挙げられていた回答が、「研修を受けていない・受けたことがない」56% (80 館)であった(複数回答可)。次いで、「外部の研修を受けている・受けたことがある」が34% (49 館)、「自館内の研修を受けている・受けたことがある」が10% (15 館)、「オンデマンド形式の研修を受けている・受けたことがある」、「その他」、「無回答」がともに3% (4 館)という結果であった。この結果から、研修経験の少なさが、洋貴重書の整理に関する研修へのニーズに繋がっていると推測された。

また、回答数としては少数であるが、「その他」の回答として、「洋貴重書の整理を委託している業者内で行っている」(2 館)、「業務委託のため不明」(1 館)といった回答も寄せられた。昨今の業務委託化の流れを受け、専任職員が洋貴重書の研修に携わっていない様子が見えてきた。

4-9. 洋貴重書の整理について、課題や問題点を問う設問である。

洋貴重書の整理について課題や問題点として挙げられた自由記述を大別すると、下記の4種類に分けることができる。

- ①専門知識を持った人材の育成・確保、館内体制に関する記述
- ②知識・スキルの継承に関する記述
- ③マニュアル、指針の不足に関する記述
- ④装備方法に関する記述

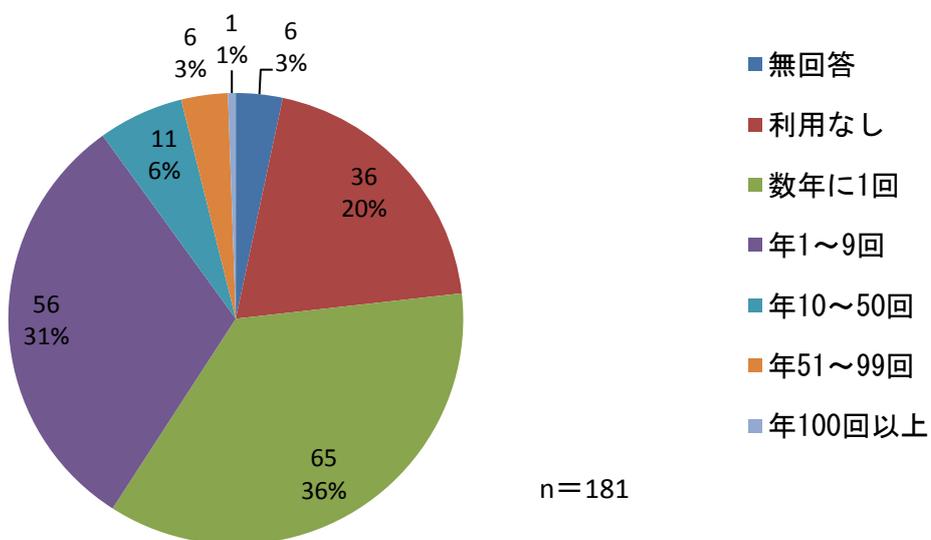
各項目における主だった回答については、回答結果を参照されたい。

5. 洋貴重書の利用について

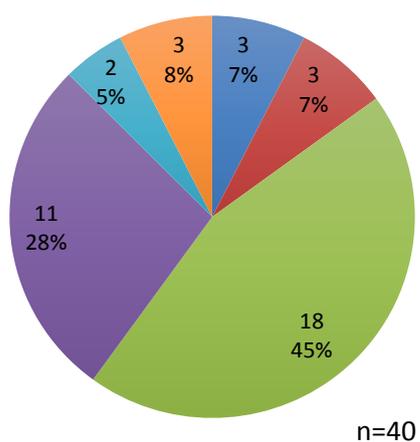
5-1. 洋貴重書の利用頻度はどのくらいですか。

利用なし	36 館	数年に1回	65 館
年1~9回	56 館	年10~50回	11 館
年51~99回	6 館	年100回以上	1 館
無回答	3 館		

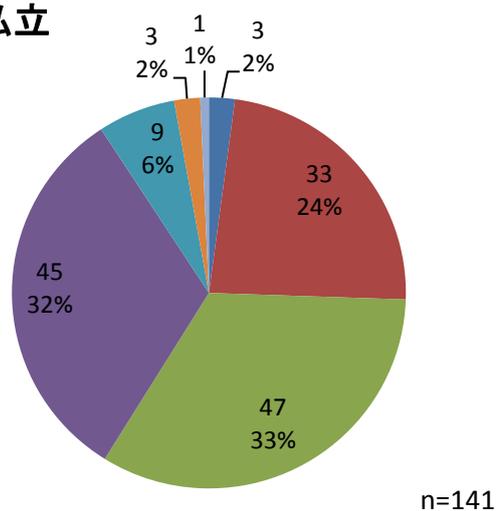
国公立 全体



国公立



私立

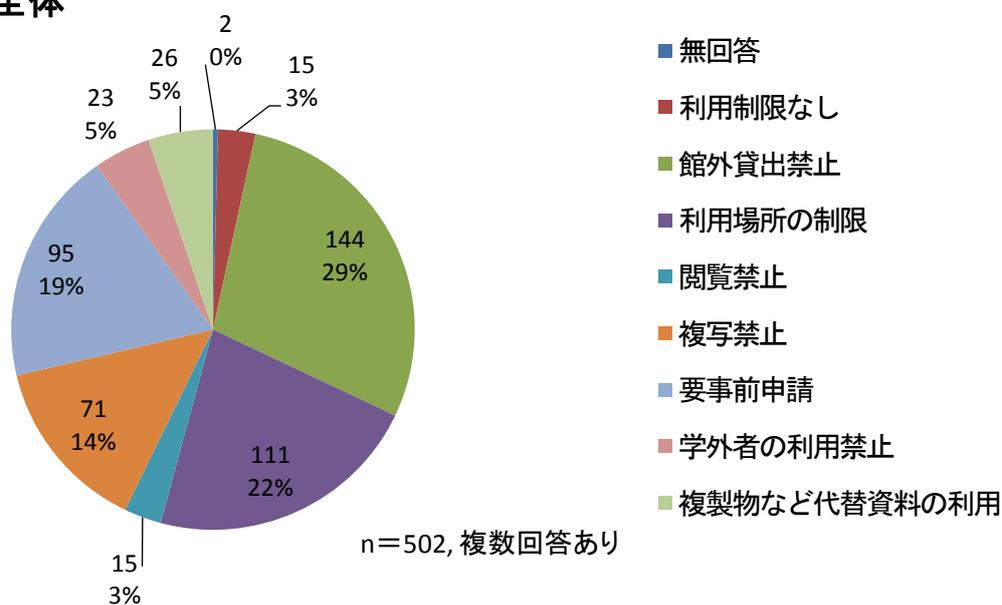


5-2. 洋貴重書の利用制限について当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

利用制限なし	15 館
利用場所の制限	111 館
複写禁止	71 館
学外者の利用禁止	23 館
無回答	2 館

館外貸出禁止	144 館
閲覧禁止	15 館
要事前申請	95 館
複製物など代替資料の利用	26 館

国公立全体



〈その他 (自由記述)〉

■国立

館外貸出禁止の資料については、職員がいない時間での利用は事前に申し出が必要。状態の悪い資料は、利用を制限する場合がある。
問2-3-2の基準にあてはまらないものは利用制限なし
電子複写は禁止しているが、撮影による複写は可能
複写は本学委託業務者によるマイクロまたはデジタル撮影
デジカメ等による撮影のみ可能

■公立

本によって扱いがバラバラ。
本学教職員のみ館外貸出可
コレクションは年一回の公開期間を除き利用禁止
個々の資料の状態に応じて制限事項を設けることとしている

■私立

(基本的には利用制限がないが、) 現物を確認し、複写及び貸出を制限する場合があります。
資料によって、利用権限内容が変わる。
一部利用・閲覧禁止
事前に館長による決済が必要
研究図書費で購入した場合は、申込者のみ貸出可とし、その他は閲覧のみ
専任職員立会いの下で閲覧させる。
資料の状態により閲覧禁止の場合もあり得ます。
複写についてコピーは禁止、写真撮影、マイクロ撮影は状態によって可。
ゼロックスコピーは不可。但し写真撮影は可。
学外利用者については館長の許可が必要
教育研究目的で紹介状があれば、学外者の閲覧も可

5-3. 洋貴重書の利用について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

■国立

一般資料として配架している西洋古版本にも本学貴重図書類の基準に合致するものが多数あると思われるが、網羅的調査が行えていない。そうした資料は保存環境、利用方法共に問題がある。
洋貴重書を整理できる職員が不足している
貴重図書の所蔵を本学図書館の特色のひとつとして、学外にアピールできていない。
保存及び修復の方法、費用に関すること
現在増築改修中だが、工事後は貴重書の閲覧場所を設ける予定
特別利用(展示会への出陳、掲載、放映等)や全頁複写のルールの明文化が課題

■公立

洋貴重書の利用に関する規程を整備すること。
資料の劣化への対応

■私立

資料の公開方法
規程を明文化すべきだと考えている。
所蔵している洋古書は、HathiTrust 等の digital library にて公開されているので、本体そのものを利用する必要はない。
収蔵のみで展示等は出来ていないことが課題
学科改組により、あまり利用されなくなった。

劣化している資料が多いため、利用させてよいか迷うことがある。
資料の撮影や利用のための専用スペースがない。
利用(特に複写、撮影)について、明文化された規則が無いことから、個別に判断することになり、対応に時間がかかる場合がある。
保存状態の悪い資料の利用の可否について、判断が難しい。
保存のため公開はしていません。そのため一部資料のみですが、電子化して公開しています。電子化はごく一部のため、ほとんどは利用不可の状態です。
洋古書の取り扱いに習熟した利用者が少ない
利用頻度が少ないため、現状は特に課題や問題はありません。
学部学生が利用する機会がほとんどない。また、貴重書庫からの出納、利用時の立ち合いなども他業務を兼任する職員が行っているため、利用者が希望する日時に利用できないことがある。(利用申請の際に調整が必要。)
利用マナーについては徹底をお願いするが、利用自体については広報・HPなどを通じて活発になるように公開していく必要性を感じている。
貴重書庫に付属した閲覧施設がないため、貴重書を常温・湿度に空調管理された書庫から取り出し、閲覧場所の温湿度に慣らすまでに、時間がかかり、提供がすぐにはできない。デジタル撮影(個人のデジカメ等)の許可範囲や可否について要検討課題である。
貴重書の利用について、近年、研究のために閲覧だけでなく画像データ提供を希望する利用者が増加している。しかし、当館では利用者による撮影、複写を禁止しており、原則として図書館で撮影した紙媒体の複写物を提供している。今後は画像データでの提供へ移行していくことが求められるが、撮影方法や費用など解決すべき課題も多い。
閲覧するスペースが狭い。 準貴重書閲覧利用者と同スペースなので、タイミングによって場所がなくなってしまう
専用の閲覧場所がない(設備が整っていない)
貴重書を閲覧できる専用のスペースがなく、カウンター近くの閲覧席で利用してもらっています。
多くは取り扱いを知らない方が多いため、どうしても担当がご利用の間つくことになり手間がかかる点。
利用促進を積極的に進めたいが、職員が少なくすぐに取り組むことは難しい。
準貴重図書レベルの資料も一般書同様に貸出可能としている現状の管理方法が適切ではないと考える。
取扱要領が古く、最近の事情にそぐわない部分がある
館員の知識量に左右される点も多いと思う資料であることから、適切な資料提供ができていないか、不安がある
原本資料の保存とのかねあい。代替資料作成にかかる費用。
革装資料等、傷付きやすいため取扱いに注意が必要となること

利用について、一応の基準はあるが、目録リストを公開していないため、簡単に利用ができない。
展示室や、展示ケースを設置していない。
学部構成の変更により研究者不在のため、利用されることがない。
傷みの激しい本の修復、また閲覧の対処
利用頻度の増加による破損など

利用について

5-1. 洋貴重書の利用頻度について

最初に洋貴重書の利用頻度について質問した。この項目は1999年の調査には無く、今回の調査で新設したものである。全体では利用なしが約20% (36館)、利用ありが約80% (137館) となり、洋貴重書の所蔵館の多くが利用に供しているという結果となった。また、所蔵冊数の多い館ほど利用頻度が高い傾向であることが分かった。国公立大学は私立大学に比べて所蔵冊数に関わらず利用ありの割合が多い傾向にあった。

5-2. 洋貴重書の利用制限について

利用制限について、「無し」と回答したのは3%にとどまった。前回調査では、貴重書に対し、制限を設けている大学(35%)が制限を行っていない大学(25%)を多少上回るとの結果であったため、利用について何らかの制限を設ける大学が増加したと言える。制限の内容で多かったのは、「館外貸出禁止」「閲覧場所の制限」「要事前申請」であった。「閲覧場所の制限」をしている大学が多い一方、5-3で専用の閲覧スペースが無いことを問題としている大学が見受けられた。次いで多い制限は「複写禁止」であったが、これについては、デジタルカメラ等による写真撮影については可、と回答する大学が多く見受けられた。

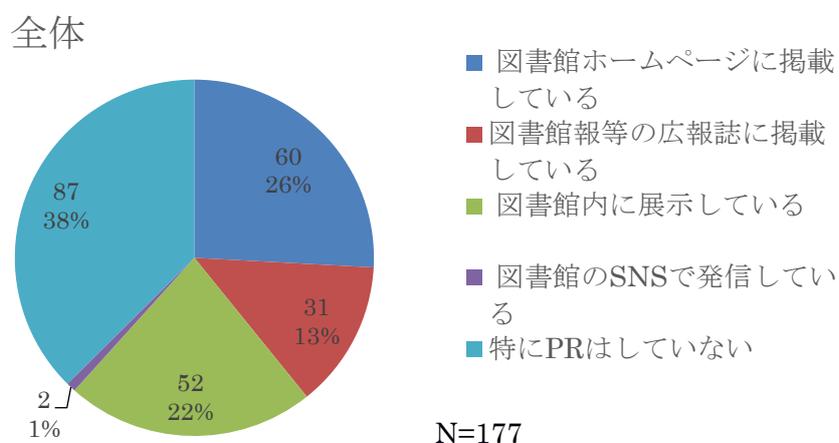
5-3. 洋貴重書利用における課題や問題点について

多くの利用者が貴重書の取り扱いを知らない、という意見が多かった。職員が立ち会うことになるが、職員も兼任等の事情で利用者との日程調整に苦慮している、との意見もあった。また、状態の悪い資料を利用させて良いか否かの判断についてや、利用頻度増加による破損の心配など、利用と保存の兼ね合いについての問題点を挙げる館も多かった。

問 6-1-6 活用について

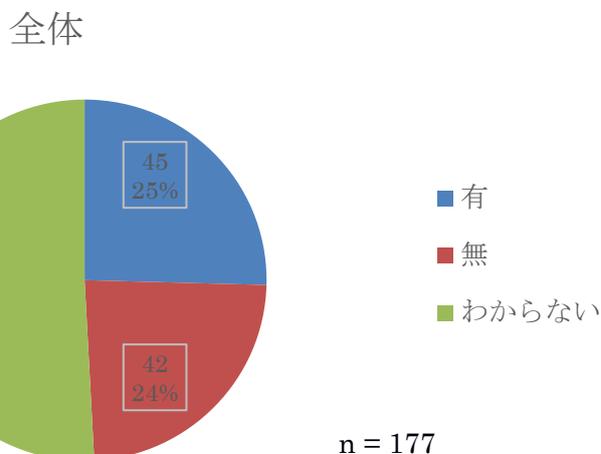
問 6-1 図書館では洋貴重書を学内外にPRしていますか。当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 図書館ホームページに掲載している | <u>60館 (26%)</u> |
| 2. 図書館内に展示している | <u>52館 (22%)</u> |
| 3. 図書館報等の広報誌に掲載している | <u>31館 (13%)</u> |
| 4. 図書館のSNSで発信している | <u>2館 (1%)</u> |



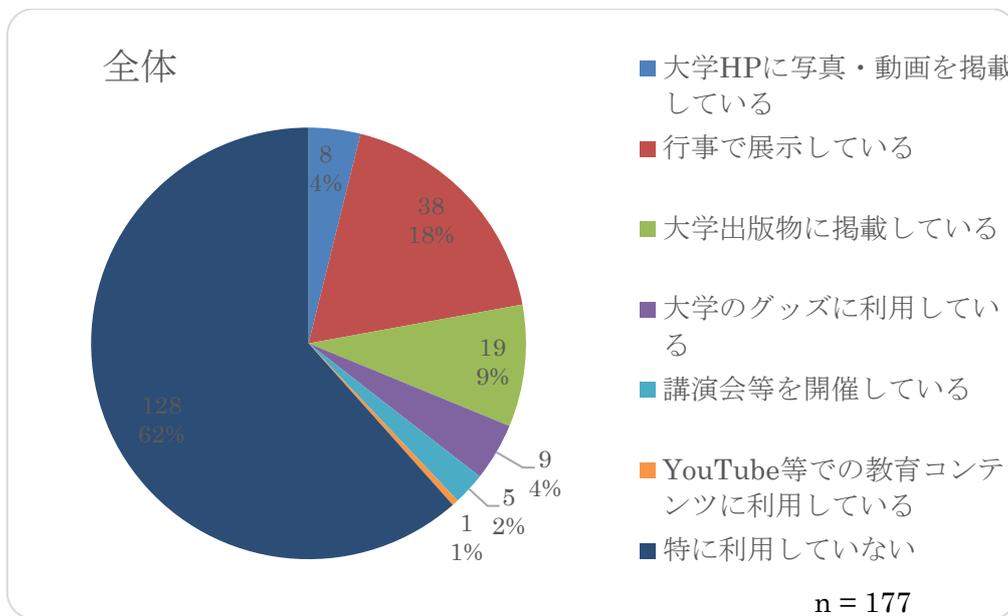
問 6-2 教員、館員等が洋貴重書を研究に活用し、論文等で発表することはありますか。

有 25% (45館) 無 24% (42館) 不明 51% (91館)



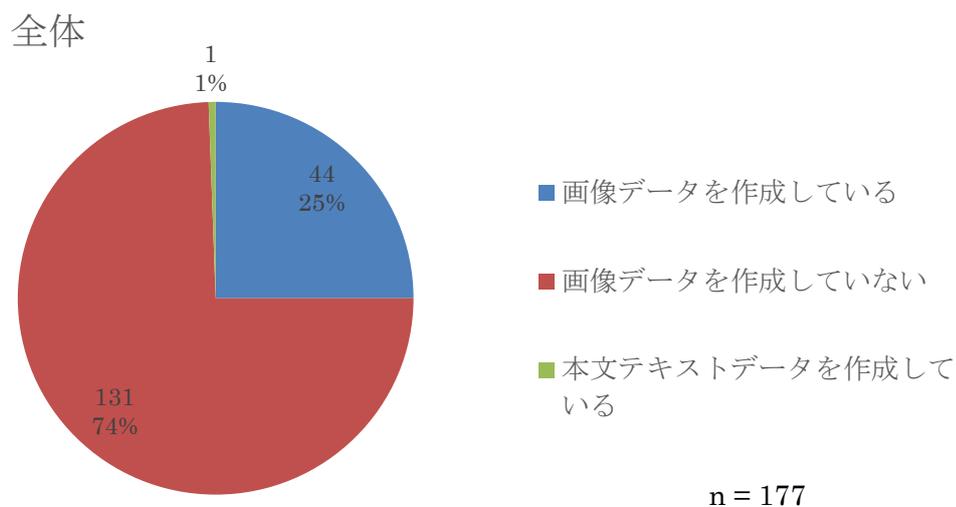
問 6-3 大学が広報として洋貴重書を利用することはありますか。当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

利用あり 38% (50校) 利用なし 62% (128校)



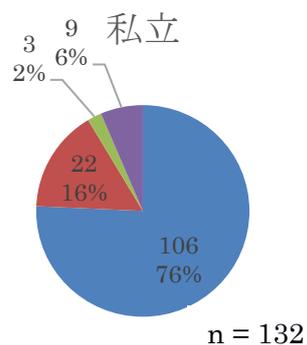
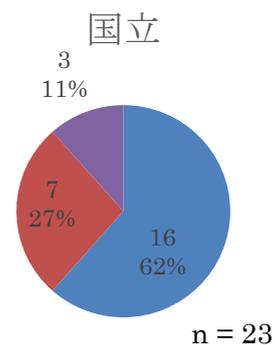
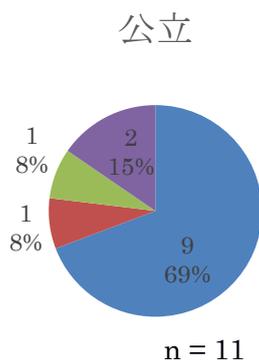
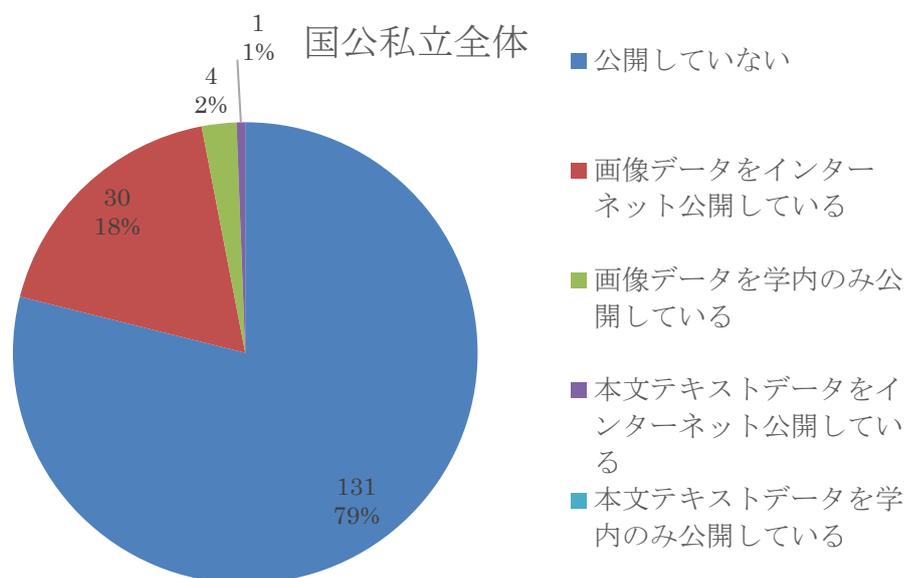
問 6 - 4 洋貴重書のデジタルデータを作成していますか。当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

作成している 26% (45館) していない 74% (131館)



問 6-5 洋貴重書のデジタルデータを公開していますか。当てはまるものをお選びください。(複数回答可)

1.	公開していない (ない含む)	131	78%
2.	画像データをインターネット公開している	22	17%
3.	画像データを学内のみ公開している	4	2%
4.	本文テキストデータをインターネット公開している	1	1%
5.	その他 公開準備	1	1%
6.	無回答	12	



問 6-6 洋貴重書の活用について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。 24 件の回答

私立大学

所蔵冊数	回答
1～1000	解題等の解説の作成公開
1～1000	活用するための人材不足
1～1000	活用する方策について検討するべきだと思う。
1～1000	助成金を利用して一部を電子化したが、予算の都合で継続できない。
1～1000	傷みなどで利用できない資料がある。
1～1000	専門知識を持つ人材の育成・確保
1～1000	点数が限られており、特に課題として認識していない。
1～1000	劣化防止対策
1～1000	予算の問題もあり、外部公開が難しい。
1～1000	貴重書庫内の資料について、存在が知られていないことから、利用が低調である。
1～1000	購入時に関わった教員の退職などにより、活用に困難が生じているように思われる。
1～1000	資料展示の環境が未整備。見学者への公開も一部資料にとどまっている。デジタルデータの公開にも取り組みたいが、人員不足である。
1～1000	明確な収書目的もなく購入しているためか、コレクションとしての特色が薄く、展示などでアピールするにもインパクトが弱い。
1001～5000	画像データのみではなく、本文テキストデータまで作成したいが、業務量的にも余力がない
1001～5000	本学の洋貴重書を有効活用してもらえようデジタルアーカイブ化をすすめていく予定です。
1001～5000	洋古書を専門に研究する教員がいないため、利用頻度はそう高くはないが、いざ講義で利用するとなると、同じ資料を利用する事が多いため、破損が心配の種となっている。また、専門の職員がいないため、研究者以外から見学希望がでたとしても、解説をする人間がおらず、そのため展示なども行えないという、悪いループが発生しており、せっかくの資料をきちんと活用する事ができていない。
5001～1万	画像デジタルデータの公開
5001～1万	展示や講演会を行うための知識（資料に関する理解や展示ノウハウ）を蓄積するのが難しいので、学内の教員や研究者の協力を得たい。
1万以上	貴重書を購入後は、教員の研究、論文執筆等で活用されるが、研究活動は数年で終わるため、その後の利用が少ない。
1万以上	貴重書の活用のために、画像データの作成/保存、公開をすすめたいが経費がかかるので、その獲得が課題となっている。また、データ化にあたって対象資料の選定やその優先順位などポリシーの策定も課題といえる。

公立

所蔵冊数	回答
1～1000	画像の学外公開(環境整備やルール作りなど)

国立

所蔵冊数	回答
無回答	貴重書を多くの人に活用してもらいたいが、貴重書であるが故に、現物を自由に閲覧させることができない。利用と保存を両立させることが難しい。
5001～1万	洋貴重書の中には、表紙が革製のものがあり、劣化が進んでいるものがある。

問6では、「活用」という視点から、西洋古典貴重書の現状と課題について尋ねた。回答全体を通して、洋貴重書の活用は行われているが、際立ったものではなく、所蔵の少ない館は、積極的なPRや公開はなされていないが、人的余力があり整理が進み、方針をもっている館は積極的な活用が行なわれていることが分かった。設立母体(国公立)による差異はみられなかった。

6-1 洋貴重書のPRについて問う設問である。

所蔵館のうち、何らかの形でPRしていると回答したのは96館(約60%)、特にPRしていないは87館(38%)であった。PRの内訳はHP掲載、展示、広報誌、SNSの順である。傾向として所蔵数の多い館、洋貴重書の専任職員(兼任含む)がいる館は活発なPRを展開していることが分かった。内容は、行事での展示、出版物やホームページへの掲載、大学グッズ利用などである。目を引くのは教育コンテンツ活用であった。学内における日頃の図書館側のPRが影響していると思われる。国立大学においては、ホームページ掲載(56%)、館内展示(19%)、館報誌掲載(11%)の順で、公立大学では、館内展示(14%)、ホームページ掲載(7%)、広報誌掲載(7%)の順、私立大学は、館内展示(24%)、ホームページ掲載(21%)、広報誌掲載(14%)の順であった。

6-2 洋貴重書を教員・職員が研究活用、論文発表しているかについて問う設問である。

この回答のみでは活発・不活発は判断できないが、前回アンケートと比較すると有りの回答が下がり、不明がかなり増えているが分かる。教員との連携・関係性に時代的な差異があると考えられる。国公立、所蔵数による特徴的な差異は見当たらなかった。

*前回アンケートの回答は以下である。

前回回答 有 40% (62館)、無 57% (89館)、不明 3% (4館) 回答館 155館

6-3 大学が洋貴重書を広報として利用しているかについて問う設問である。

大学の広報については、所蔵がある大学の約28%が何らかの形で利用し62%が特に利用されていない。具体的には、行事での展示、出版物やホームページへの掲載、大学グッズ利用などである。特筆されるのは教育コンテンツとしての利用であり、それらは各大学図書館の地道な学内PR活動が背後に存在するのではないだろうか。今後、図書館と大学が連携してさらなる利用促進が望まれる分野である。前回アンケートでとの比較では%としては変化はないが、順位が以下の通り変動した。大学広報、冊子体の大学案内に掲載する

の回答が多く、続いて展示であった。今回は、展示（18%）、大学出版物への掲載（9%）、大学HP掲載（4%）、大学グッズ利用（4%）の順で、展示活動が順位を上げている。

前回回答は右記である。利用あり 40%(63校)、利用なし 60%(95校)、回答 158校

6-4 洋貴重書のデジタルデータの作成について問う設問である。

回答館のうち、国立大学8館、公立大学2館、私立大学35館（1館は本文テキスト有り）が作成していることが確認できた。前回よりもデジタル化への対応が進み作成館が増えていることがわかった。時代のながれであるが、代替としてのデジタル化、劣化の進行を防ぐ役割も意識されていると思われる。

前回アンケート回答は次の通りである。作成している 7%（7館） していない 53%（144館）、予定有り 3%（8館）

6-5 洋貴重書のデジタルデータの公開について問う設問である。

回答館のうち、何らかの形で公開している 21%（34館）、公開していない 79%（131館）である。国立大学では7館、公立大学1館、私立大学では22館が、洋貴重書画像データをインターネットを介して公開していることが確認できた。また所蔵数が多い館が積極的に公開していることがわかった。所蔵規模別では、一万以上の所蔵館7校のうち6校がインターネット公開を行っている状況がわかった。全体を通して前回アンケートよりもデジタル化が進んだが公開は進んでいないことがわかった。傾向として、所蔵の少ない館は公開が進まず、所蔵の多い館は公開が進んでいることが分かった。データからは、インターネットによる画像データ公開については設置母体別では国立大学が30%と比率が高い

6-6 洋貴重書の活用について、課題や問題点を問う設問である。

回答された課題と問題点を整理するとおおよそ以下のカテゴリーに分けることができた。人材的課題（職員と教員）、経費的課題、資料劣化との兼ね合い、全体を把握してポリシー策定などである。その中で特に、洋貴重書の価値再考や方向性を示し、教員と共同で史資料を扱える知識と連携力、教員を動かす力、積極的な発信や活用力、ひいては、洋貴重書の管理・運営等マネジメントの必要性が浮き彫りにされている。（前回アンケートでは自由記述は設問されていなかった）。

7. 保存・修復について

7-1. 洋貴重書の資料保存に関する方針・基準がありますか。(複数回答可)

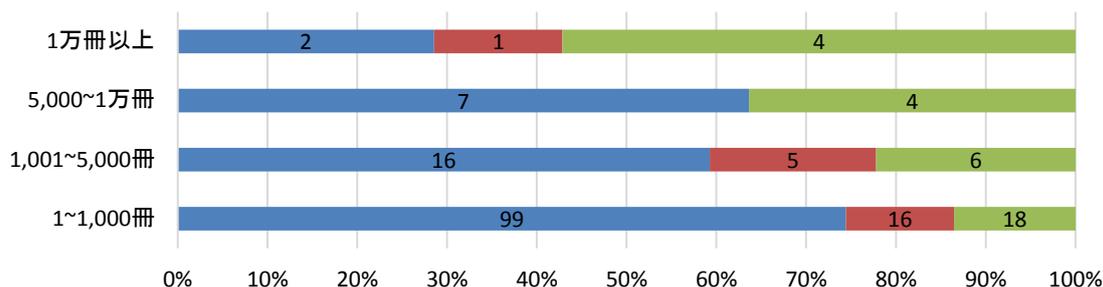
資料の除籍・廃棄方針・基準がある	23 館
資料保存方針・基準がある	33 館
どちらもない	127 館
無回答	5 館

国公立 全体



n = 188

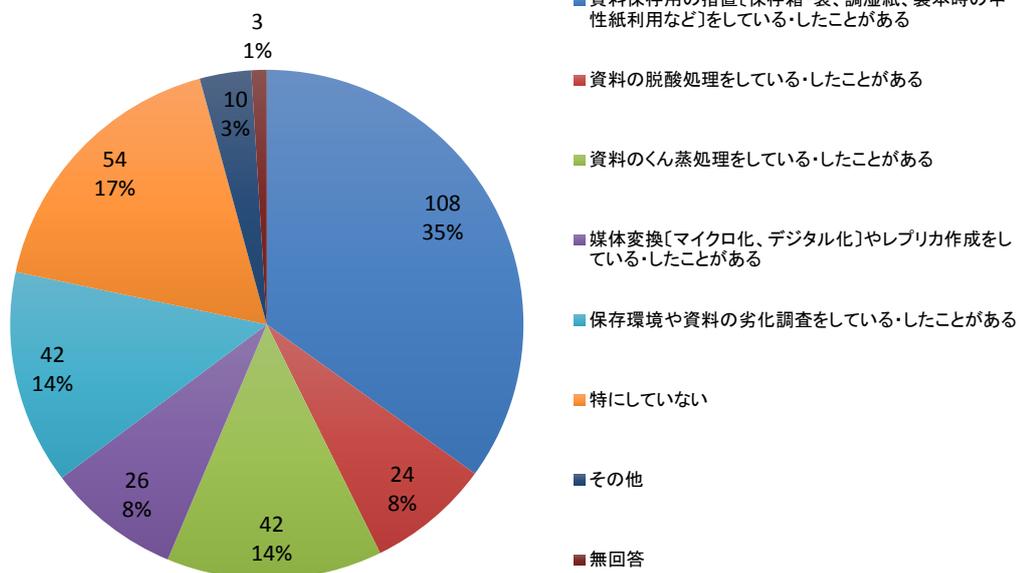
国公立 全体 所蔵数別



7-2. 洋貴重書の保存対策として、どのような方法を実行していますか。(複数回答可)

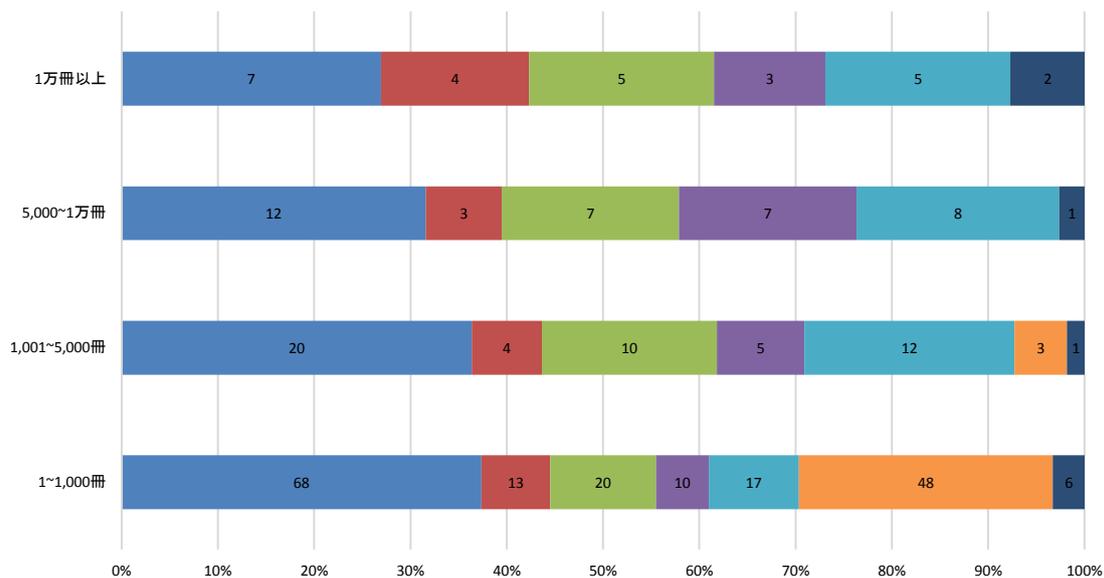
資料保存用の措置〔保存箱・袋、調湿紙、製本時の中性紙利用など〕をしている・したことがある	108 館
資料の脱酸処理をしている・したことがある	24 館
資料のくん蒸処理をしている・したことがある	42 館
媒体変換〔マイクロ化、デジタル化〕やレプリカ作成をしている・したことがある	26 館
保存環境や資料の劣化調査をしている・したことがある	42 館
特にしていない	54 館
その他	10 館
無回答	3 館

国公立 全体



n = 309

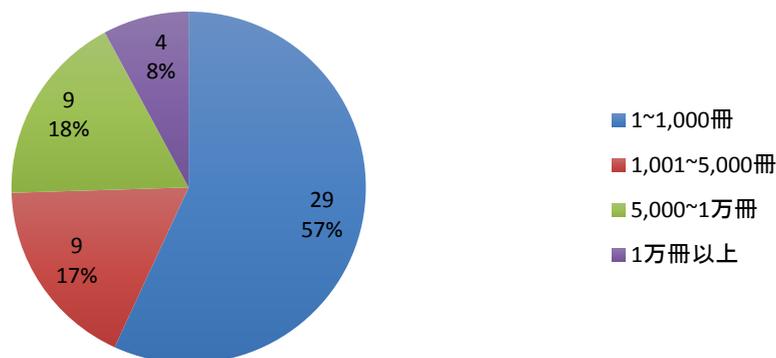
国公立 全体 所蔵数別



7-3. 洋貴重書の保存・修復について、課題や問題点はありますか。ご自由にご記入ください。

記入 51 館

国公立 全体



n = 51

所蔵冊数	内容
■ 国立	
1~1000	貴重書用に設計された部屋がなく、また、知識も不足しているため、適切な保存状態であるか不明。
1~1000	酸性紙本の保存方法について
1~1000	保存や修復についてノウハウがない。
1001~5000	閉架書庫内の温度管理ができないフロアに保存しているため、保存環境を整備する必要がある。
5001~1万	修復のための予算措置がされていない。
5001~1万	・資料保存について学ぶ機会が少なく、職員の知識が不足していること。 ・予算、施設面（特に、空調施設の老朽化）の問題。
5001~1万	レッドロットの資料について、HPCを用いて対策を行いたいと考えているが、知識と経験が足りず、実行には至っていない。また、大型本で破損のひどいものも多く、なかなか手が付けられない状況である。
1万以上	大型図書専用棚がなく、通常の書架に立てて配架しているため資料に負担がかかっている。資料を寝かせて配架できるような専用棚の設置が必要。
1万以上	予算の確保
■ 公立	
1~1000	専門知識を持つ職員が不在であること。
1~1000	修復費用の確保
■ 私立	
1~1000	保存・修復の知識が不足している
1~1000	何もしていない事自体問題だと思うが、人手が足りない。
1~1000	1点当たりの費用がまちまちで予算化し難い。
1~1000	資料の保存環境を整えるにあたり、予算面や知識面から困難がある。
1~1000	保存するための環境が整っていないし、そのための予算もない

1～1000	図書にいたみがあって保存上非常に気にはなっているが、修復の費用がネックで、修復ができない。
1～1000	破損箇所を修理したほうがよいのか、そのまま保存すべきなのかかわからない。
1～1000	脱酸には、多額の費用がかかることから、ほとんど実施できていない。
1～1000	経費が掛かるためそれなりの予算確保が必要であること
1～1000	図書館で修復の専門知識を持った職員がいない
1～1000	現物通りに修復する場合、革での製本は高度な技術の習得が必要
1～1000	費用の問題
1～1000	保存・修復の知識がなく処理に苦慮する
1～1000	専門的知識が足りないのと、保存・修復についての（特に修復）経験がないので、例えば、いつ、なにを、どう修復すべきという判断をすることさえ難しい。
1～1000	保存のための設備が予算の問題等で整っていない。
1～1000	年々該当する資料が増加し、良い状態を維持していくことも現在の体制では難しい。情報収集だけでもと考えるが、通常業務に時間を取られがちになる。
1～1000	貴重書庫が狭い。温湿度管理など保存環境を改善したい。修復については、原装保存とすべきか、利用に耐えうるよう修理すべきか。費用と利用頻度を考慮して前者としているが、修復を判断する基準がないため、課題の一つと考えている。
1～1000	保存・修復の研修を受けたことがある職員が少ない
1～1000	中長期的な劣化対策
1～1000	革装本が多いため、修復に多大な費用がかかる点
1～1000	資料の経年劣化が進んでいるが、対処療法的なことを行っている。対応できる人員や時間がなかなか確保できず、根本的な対処ができない。
1～1000	温度・湿度を管理する施設や展示室・展示ケースがない。修復の予算がない。
1～1000	貴重書庫に納め、温度と湿度を管理している
1～1000	保存スペースの確保が難しく、一部洋図書（貴重書）を一般書の書架に混配している。また保存環境が良い状態ではない。
1001～5000	紙の劣化問題に伴うデジタル化検討
1001～5000	温度、湿度の管理。室内の清掃。
1001～5000	環境調査などが大変である。くん蒸処理ができなくなり大変
1001～5000	書庫において保存に適した安定した環境が整っていない
1001～5000	空調（温度湿度）管理はされた一室に収蔵し、保存箱等の措置は経常費のなかで可能であっても、それ以外はなかなか予算化を含め、実施は厳しい
1001～5000	蔵書点検は行っているが、経年劣化による破損等があった場合の対応を含め、今後の保存・管理方法について検討が必要。
1001～5000	施設・予算面において、適切な保存環境の整備・維持に苦慮している。
1001～5000	購入時の原装のままとするか、修理をすすめるべきかの判断に迷う事がある。
5001～1万	デジタル化が遅れているため、原本のみの過度の閲覧・利用により資料が傷む
5001～1万	問7-1の資料保存方針や除籍・廃棄の基準等については、一般図書も合わせて最新のものを検討中である。また、資料の保存・修復について、劣化などの具合による作業の必要性などの判断がつきづらく、そのための予算も潤沢ではない。
5001～1万	1. 保存庫の狭隘化 2. 当面、保存箱等の製作は行うが、貴重書本体の補修について今後検討する必要がある。
5001～1万	修復すべきものと、現状のまま保管することが望ましいものとの、選別が難しい。
5001～1万	修復を担当できる職員がいない

5001～1万	<p>書庫スペースが不足している。 もっと柔軟な温湿度管理を実施したい。 人手が不足している。</p>
1万以上	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重書庫の書架がスチール製（現在は棚に中性紙を敷いて対応）である。 ・原本保存を基本とし、破損資料については、箱等の容器収納で対応している。保存の第一段階はクリアしていると思うが、今後は修復の必要性についての方針を含め基準作りが必要となってくる。
1万以上	<p>資料の適切な保存のために、定期的な害虫、カビ等の調査が必要だと思いますが、本学ではこれまで全く行われておらず、昨年度、小規模の害虫調査を実施した。</p>

問.7 では、保存・修復の方針・基準と実行している保存方法、課題問題点を尋ねた。

問 7-1 洋貴重書の資料保存に関する方針・基準について

全体の約 68%(127 館)が資料の除籍・廃棄や資料保存に関する方針や基準を設けていないことが確認できた。資料の除籍・廃棄方針・基準がある館は 12%(23 館)、資料保存方針・基準がある館は 17%(33 館)であり、貴重書として扱っているためか、除籍・廃棄に関する方針や基準よりも、保存に関する方針・基準が多く確認できた。保存に関する方針・基準について、所蔵冊数別に見てみると、所蔵冊数が多い大学ほど方針・基準を設けている事がわかる。一方で、資料の除籍・廃棄方針・基準がある大学は、所蔵冊数が少ない大学に多い傾向がある。

問 7-2 洋貴重書の保存対策について

洋貴重書の保存対策としては、資料保存用の措置（保存箱・袋、調湿紙、製本時の中性紙利用など）を実施している館が 35%(108 館)で一番多く、まったくしていない館は 17%(54 館)であった。資料保存用の措置について、資料の燻蒸と環境・資料の調査が 14% (42 館)、であった。保存対策では、比較的安価に済む方法が多く実施されている傾向にある。所蔵冊数別にみると、5,000 冊以上を所蔵する大学全てが、何らかの保存対策を実施していることが確認できた。

問 7-3 洋貴重書の保存・修復について、課題や問題点

保存・修復に関する課題や問題点について 51 館からの回答があった。国立 9 館、公立 2 館、私立 40 館と、私立大学から多くの回答があった。全体では、1~1,000 冊を所蔵する大学の 57% (29 館) が半数以上を占めていた。

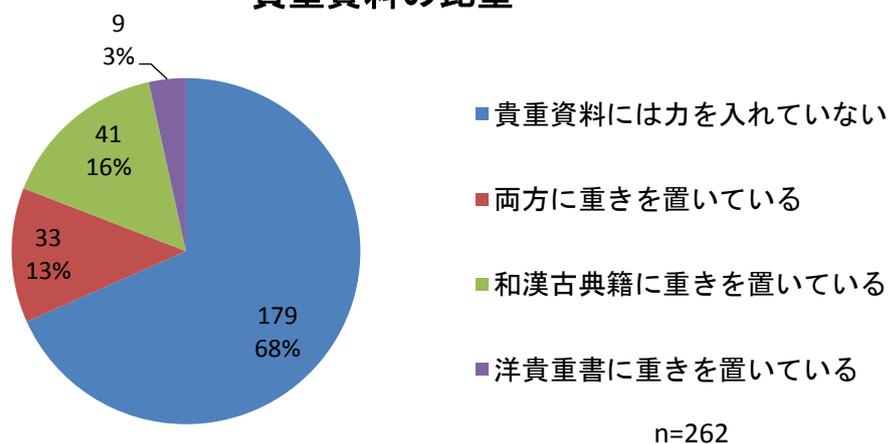
回答の多くは、専門知識不足(ノウハウ)、予算確保(修復費用、設備関係)がほとんどであった。古い資料のため修復等が必要な資料があるものの、所蔵数や 1 冊 1 冊の状態により、修復の予算を確保することが難しいという問題が確認できた。適切な保存環境整備と修復保存に関する専門知識の不足や予算確保の困難さが、全体を通して保存対策が進んでいない理由だと考えられる。

8. その他課題など

問 8-1 貴館での貴重資料の比重について当てはまるものをお選びください。

貴重資料には力を入れていない	179 館	両方に重きを置いている	33 館
和漢古典籍に重きを置いている	41 館	洋貴重書に重きを置いている	9 館

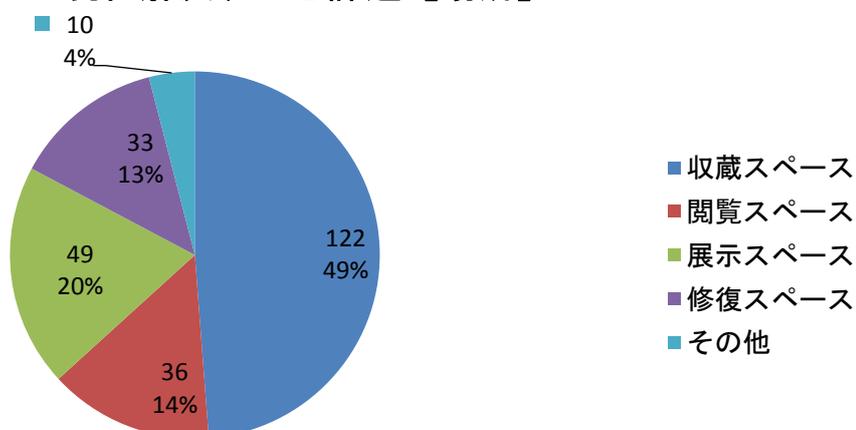
貴重資料の比重



問 8-2-1 洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。【場所】（複数回答可）

資料に関する収蔵スペースが不足している	122 館
資料に関する閲覧スペースが不足している	36 館
資料に関する展示スペースが不足している	49 館
資料に関する修復作業スペースが不足している	33 館
その他	10 館

現在解決すべき課題【場所】



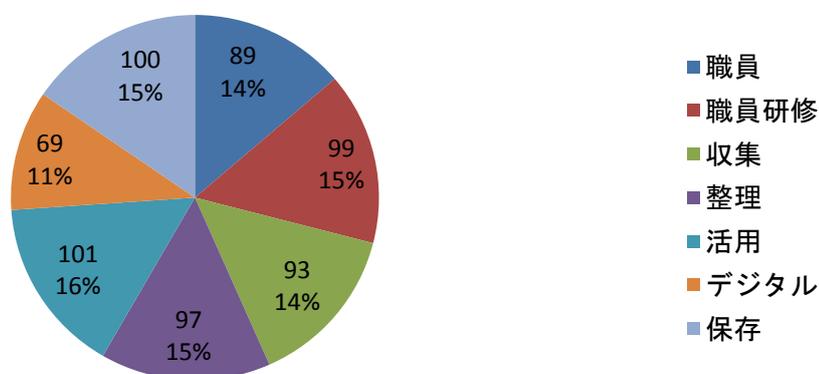
〈その他（自由記述）〉

貴重資料として保存する規程や基準が無い。
収蔵スペースの空調・温度管理ができていないこと
収蔵スペースがない
書庫内で一般図書と混配している。
保存環境に問題がある
すべてのスペースが不足しているが、圧倒的に収蔵スペースが不足している
収蔵スペースが適切な保存環境になっていない。
保存状態を保つのが困難
保存する環境が十分に整っていない。
貴重資料として保存する規程や基準が無い。

問 8-2-2 洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。【人材】（複数回答可）

資料の担当・専任職員が不足している	89 館
資料の担当・専任職員の研修が不足している	99 館
資料の収集のノウハウが不足している	93 館
資料の整理のノウハウが不足している	97 館
資料の活用のノウハウが不足している	101 館
資料デジタル化のノウハウが不足している	69 館
資料保存のノウハウが不足している	100 館
その他	1 館

現在解決すべき課題【人材】

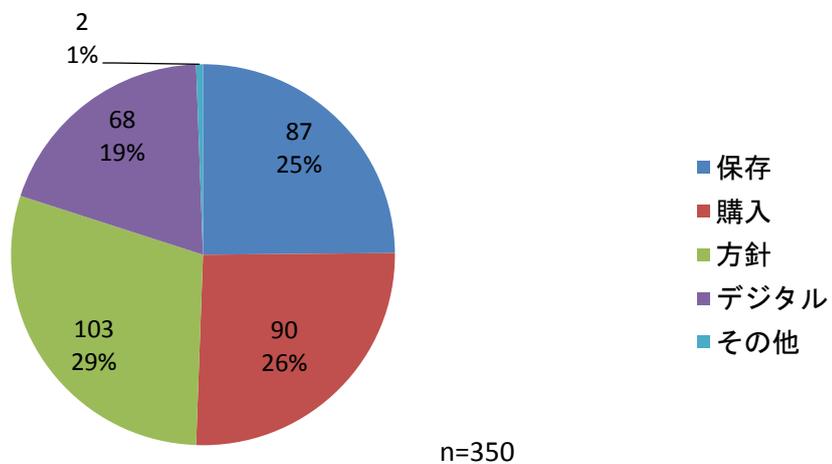


n=648

問 8-2-3 洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。【資金】（複数回答可）

資料の購入費が不十分である	87 館
資料保存の予算が不足している	90 館
資料デジタル化の予算が不足している	68 館
資料購入の基準、方針が不十分である	103 館
その他	2 館

現在解決すべき課題【資金】



〈その他（自由記述）〉

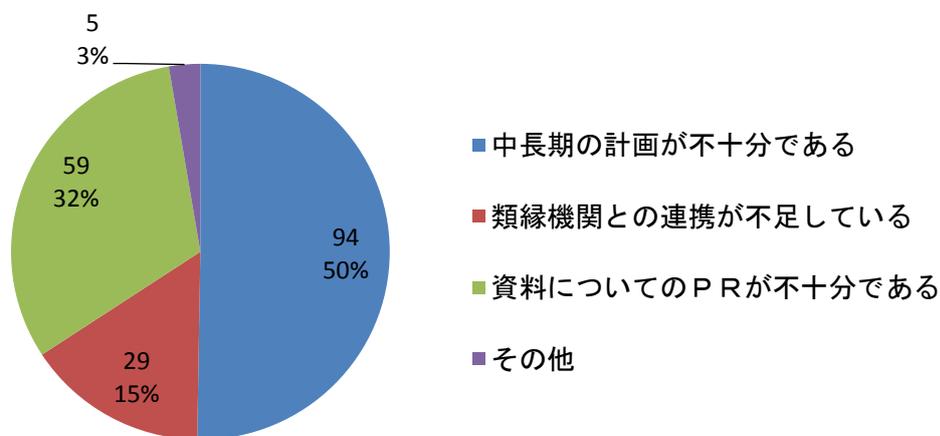
保存庫の増設

予算がない

問 8-2-4 洋貴重書に関して、現在解決すべき課題があれば選択してください。【その他】（複数回答可）

中長期の計画が不十分である	94 館
類縁機関との連携が不足している	29 館
資料についてのPRが不十分である	59 館
その他	5 館

現在解決すべき問題【その他】



n=187

〈その他（自由記述）〉

大学全体で必要性を感じていない
目録書誌情報の検証と修正
未整理資料に対応する時間と知識がない
デジタル化した資料のビューワーソフトの解像度が低い点
修理をどの業者に依頼するか、どのように修復するかという点

問 8-3 ほかに何かお気づきの課題や問題点がありましたら、ご自由にご記入ください。

※今回のアンケートについて：洋貴重書についての収集・保存方針、予算等はなく、すべて一般図書についての方針、予算の中での対応になります。
日本語・漢籍以外を洋書としているので、東学ではアジアのものを中心に所蔵しております。資料の保存・整理の知識不足が課題です。
本学で所蔵している洋貴重書は、主に寄贈によるものです。洋貴重書に限定した予算配分

<p>などはなく、積極的な収集をしていないため、収集・整理業務の面ではノウハウが不足していると感じます。</p>
<p>貴重書所蔵の他図書館と連携等ができれば心強いと思います。</p>
<p>ぎりぎりの人員体制で館を運営しているため、情報収集、他館との交流、研修参加などを希望していても先送りしがちになる。</p>
<p>洋貴重書は、主に教員が授業で使用したいという要望を寄せたときに古書購入予算より購入している。学生が自発的に洋貴重書を利用することは考えづらく、購入を希望した教員も購入後に一度使用したきりというケースが多く、かける費用とその価値が釣りあっていないと感じる。今後も図書館が積極的に購入する意義は見出しにくい。</p>
<p>予算の確保が難しい</p>
<p>過去の貴重書選書は知識の豊富な人間が担当をしていましたが、現在では司書という枠もなく、経験の浅い大学事務員が担当しており、知識不足を痛烈に感じています。知識を埋めようと研修会などに参加してみるものの、すぐに人事異動でいなくなり、知識の継承はままならない状態です。今後、洋古書もしくは、西洋書誌学などを専門とする教員が採用されなければ、当館の洋書のコレクションを増やしてゆくのは不可能になると危惧しています。</p>
<p>貴重書を収蔵するのに適した貴重書庫の設定および貴重書庫に付随した閲覧スペースの確保が課題である。</p>
<p>洋貴重書に熟達した館員の知識・技術の継承。</p>
<p>貴重書の利活用は重要だと思います。折角高額な費用で購入したのに貴重書庫で死蔵されているのはもったいないと思います。今後職員は、教員へ研究促進のための働きかけをしなければいけないと思います。</p>
<p>古典資料を取扱うための知識習得の必要性。</p>
<p>当館の貴重書は古文書などの日本語資料の利用が多く、洋貴重書の利用は少ない。どのようにして利用を多くしていくかが課題。</p>

問 8-4 洋貴重書の扱いについての御意見、今後の計画などがありましたら、ご自由にご記入ください。

<p>当大学は設立して日が浅く、また薬学に関する資料が多いため洋貴重書の扱いに重きを置いていない。今後幅広く資料を収集するための参考にしていきたい。</p>
<p>薬学においては最新の文献が重要であることが多く、西洋古版本は必ずしも貴重とは限らないため、汚損・破損などが要因で除籍対象となることを防ぐために、貴重書と定義づける方針を各館で定めておくことが重要である。</p>
<p>本学が人文学系の学科ですので、洋貴重書については収蔵の優先順位が低くなっておりま</p>

<p>す。ただ、地域密着を掲げておりますので、市民等からの要望も強くなれば、検討していくことになるかと思えます。</p>
<p>現在本学の研究上の収書ニーズが洋貴重書にある認識はない</p>
<p>現在弊館では、洋貴重書と思われる書籍は、教員が研究費で購入したり、学外者から寄贈を受けた数点しか所蔵をしておらず、それらは他資料と同様に受入、整理をしています。今後も、洋貴重書について収集・コレクション構築・デジタル化などをする予定はありません。和洋を問わず、古い書籍はなるべく電子化された媒体での収集または契約をしていきたい所存です。</p>
<p>この調査により、本学蔵書にも西洋古版本と定義されるものが若干含まれていることが判明しましたが、これまでは一般書と混在しておりましたので、この調査を良い機会として、今後、所蔵している西洋古版本について整理し、収蔵場所や利用制限、活用方法、保存・修復等について改めて検討していきたいと考えます。そのため、殆どの設問で有効な回答になっておりませんことをご容赦ください。</p>
<p>資料の保存やデジタル化などについては大学内で理解が得られているため、可能なところから早めに計画を立てて着手していきたい。</p>
<p>デジタル化については興味があります。</p>
<p>目録を取っておらず、検索利便性が低い点を改善したい。</p>
<p>1980年代に大型コレクションとして購入した本が中心となっている。受入れ時に目録を作成し、HPにも掲載しているが、現在はあまり利用されていないため、特段、課題として挙げられることがないのかもしれない。</p>
<p>資料を後世に引き継ぐことも考え合わせつつ、死蔵とせず、いかに利用促進できるかは担当者の知識に左右される点も多いかと思うので、いかにその知識を得るか、得ることが出来る環境を作れるか考えていかなければならないと思う</p>
<p>洋貴重書は当館では大型コレクションで購入したものがほとんどである。貴重書扱いしていない資料の中にも1850年代以前の資料が700冊ほどあり、今後の取扱について検討する必要がある。</p>
<p>2016年度より「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を実施しているところです。</p>
<p>当館独自の「資料保存総合対策要綱」は有しているが、今後の実際的な修復の必要性について方針を含め基準作りが必要となっている。</p>
<p>洋貴重書の一部はマイクロ化して利用に供しているがフィルム劣化が進んでいるものもあり、画像データとして作成/保存、公開をすすめたい。問6-6と同様に経費が課題である。</p>
<p>当大学は設立して日が浅く、また薬学に関する資料が多いため洋貴重書の扱いに重きを置いていない。今後幅広く資料を収集するための参考にしていきたい。</p>
<p>薬学においては最新の文献が重要であることが多く、西洋古版本は必ずしも貴重とは限らないため、汚損・破損などが要因で除籍対象となることを防ぐために、貴重書と定義づけ</p>

<p>る方針を各館で定めておくことが重要である。</p>
<p>本学が人文学系の学科ですので、洋貴重書については収蔵の優先順位が低くなっておりま す。ただ、地域密着を掲げておりますので、市民等からの要望も強くなれば、検討してい くことになるかと思います。</p>
<p>現在本学の研究上の収書ニーズが洋貴重書にある認識はない</p>
<p>現在弊館では、洋貴重書と思われる書籍は、教員が研究費で購入したり、学外者から寄贈 を受けた数点しか所蔵をしておらず、それらは他資料と同様に受入、整理をしています。 今後も、洋貴重書について収集・コレクション構築・デジタル化などをする予定はありま せん。和洋を問わず、古い書籍はなるべく電子化された媒体での収集または契約をしてい ていきたい所存です。</p>
<p>この調査により、本学蔵書にも西洋古版本と定義されるものが若干含まれていることが判 明しましたが、これまでは一般書と混在しておりましたので、この調査を良い機会として、 今後、所蔵している西洋古版本について整理し、収蔵場所や利用制限、活用方法、保存・ 修復等について改めて検討していきたいと考えます。そのため、殆どの設問で有効な回答 になっておりませんことをご容赦ください。</p>
<p>資料の保存やデジタル化などについては大学内で理解が得られているため、可能なところ から早めに計画を立てて着手していきたい。</p>
<p>デジタル化については興味があります。</p>
<p>目録を取っておらず、検索利便性が低い点を改善したい。</p>
<p>1980年代に大型コレクションとして購入した本が中心となっている。受入れ時に目録を作 成し、HPにも掲載しているが、現在はあまり利用されていないため、特段、課題として挙 げられることがないのかもしれない。</p>
<p>資料を後世に引き継ぐことも考え合わせつつ、死蔵とせず、いかに利用促進できるかは担 当者の知識に左右される点も多いかと思うので、いかにその知識を得るか、得ることが出 来る環境を作れるか考えていかなければならないと思う</p>
<p>洋貴重書は当館では大型コレクションで購入したものがほとんどである。貴重書扱いして いない資料の中にも 1850 年代以前の資料が 700 冊ほどあり、今後の取扱について検討する 必要がある。</p>
<p>2016 年度より「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を実施し ているところです。</p>
<p>当館独自の「資料保存総合対策要綱」は有しているが、今後の実際的な修復の必要性につ いて方針を含め基準作りが必要となっている。</p>
<p>洋貴重書の一部はマイクロ化して利用に供しているがフィルム劣化が進んでいるものも あり、画像データとして作成/保存、公開をすすめたい。問 6-6 と同様に経費が課題である。</p>
<p>当大学は設立して日が浅く、また薬学に関する資料が多いため洋貴重書の扱いに重きを置 いていない。今後幅広く資料を収集するための参考にしていきたい。</p>

その他課題など

問8-1では各館における貴重資料の比重について問うたが、回答を見てみると、貴重書に力を入れていないと回答した館が大多数であった。

問8-2で現在解決すべき問題について問うたところ、「場所」では、収書のスペース、「人材」では、人材の確保や育成、「資金」では、貴重書に使える予算や購入に関する方針がない、「その他」では、今後の計画が不十分である、という結果が多数を占める結果となった。つまり、計画が不十分なために予算を割くことができず、結果的に、貴重書の収書に繋がらない、さらにはそこに注力する人材を充てる必要がなくなる、という状況を生み出しているということが考えられる。

このことに鑑みると、問8-1での「貴重書に力を入れていない」という回答は、貴重書に力を入れたくても入れられない、あるいは貴重書に力を入れる余裕がないが故の回答であることが推察できる。

なお、興味深い点として、現在解決すべき課題「その他」の項で、資料を利用してもらうためのPRが足りていない、また、各館での「連携」が必要だとされる回答が一定数寄せられていることがある。資料は保存していても利用されなければ「死蔵」されていることと同じであるので、各館において、所蔵している資料を精力的に紹介することで認知度を上げることは、資料の活用状況を向上させるためには意義のあることだといえる。また、貴重書を所蔵している館どうしでの連携は、人材不足による知識や技術の断絶を防ぐにあたっては一定の効果が期待できると思われる。

問8-3、8-4の自由記述においても、西洋古版本を扱うための知識の習得・継承が必要である他、中長期的な視野での基準や計画の策定が必要である旨の回答が寄せられた。

おわりに

今回の調査は悉皆調査として回収率は芳しくないが、洋貴重書に関わる調査はあまり存在しないため意味あるデータとして考察を進めた。回答結果を通して、国公立をこえ、6割の館が何らかの洋貴重書を所蔵していることが確認でき、担当職員の不足また不在のため収集・整理や公開・利用が進んでいない現状が把握できた。また、洋貴重書を所蔵し担当者が存在しつつも、整理や利用・活用の整備が進んでいない館では、収集基準や方針等が整備されていない傾向があると分かった。

この背景に、予算の不足、保存環境の不備、方針や方向性のマネジメント欠如があることが数値を通して明らかとなった。特に、知識と人材の不足は前回調査より悪化傾向であり、専門知識をもった人材の退職などで知識継承がなされない状況の解決は、喫緊の課題であると考えられる。

以上の結果を踏まえると、これらの解決策として、人材育成のための継続的な研修、専門知識の共有やスキルの標準化など、各館の連携協力が強く求められているといえる。機関を越えて館員が集い、知識や情報を共有できる場の一つとして、分科会の存在意義は大きいのではないだろうか。

本調査ではコレクションに関する質問も行った。現在、洋貴重書については、日本古典籍総合目録 DB のような全国レベルの網羅的検索データベースは存在しない。研究する利用者のためこれらについても、今後、各図書館の協力のもと整備されていくことが願われる。

今回の調査が西洋古版本に関わる業務の現場において一助になれば幸いである。

なお、本調査の設問全文と結果については、当会ウェブサイトに掲載する。

補足として

研究発表会場で以下参考事例 4 点を報告した。

1. 人材育成や拠点作りとして一橋大学社会科学古典資料センターの事業を取り上げた。西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業として、研修会開催や研修生受け入れ、研究会事例発表などの情報共有と発信できる場の創出に取り組んでいる。

2. 専門知識の共有・継承の方法として、2 点事例を紹介した。神戸大学図書館と九州大学附属図書館の職員による事例である。ウェブサイトや冊子を通して知見を公開発信して有効である。

3. 国内における西洋古典籍の網羅的検索システムへの糸口および図書館同士の協力例として、ライデン大学図書館員たちが立ち上げたプロジェクト Sexy Codicology の DMMapp (Digitized Medieval Manuscripts App) を紹介した。

4.最後に、当分科会のウェブサイトを紹介した。西洋古版本のアドボカシー活動、何処でもいつでも西洋古版本の学びを始めることが出来、人的余裕なく、長期研修など参加できない場合など特に有効であると思われる。

以上、紹介した事例に類する活動が、今後、相互に補完しあうよう当分科会も相応しい活動を継続できれば幸いである。

謝辞

最後になりましたが、本調査へご協力、ご回答いただいた皆さま、ご指導いただいた講師の皆さま、誠にありがとうございました。

参考文献

- ・新井 和之「大学図書館における西洋古版本の現状と課題」『私立大学図書館協会会報』118, pp.177-182, 2002
- ・菊池 信彦「デジタル化の「その先」へ：ヨーロッパにおける中世写本のデジタル化の現状とデジタルヒューマニティーズ」『情報の科学と技術』65(4), pp.156-163, 2015
- ・倉持 隆「貴重書,アーカイブ資料から「スペシャルコレクション」へ」『Medianet』21, pp.24-25, 2014
- ・西洋古版本研究分科会編『「西洋古版本に関するアンケート」集計報告』私立大学図書館協会東地区部会研究部西洋古版本研究分科会, 2001
- ・瀧澤 栄治「神戸大学附属図書館職員のためのラテン語入門 120分」(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/products/latin/> 2018年1月29日参照)
- ・ティムソン ジョウナス「他大学協働型のスキル継承のあり方：西洋古版本を扱うための知識をより多くの図書館員に知ってもらおうということ」『私立大学図書館協会会報』146, pp.84-88, 2016
- ・床井 啓太郎「「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」について」『図書館雑誌』111(2), pp.86-87, 2017
- ・内藤 むつみ, 鈴木 秀子「今後の大学図書館と貴重書について：西洋古版本に関するアンケート集計報告」『私立大学図書館協会会報』116, pp.122-128, 2001
- ・渡邊 由紀子「図書館「ラテン語古刊本書誌作成研修会」の活動から」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』28, pp.11-25, 2008
- ・DMMapp (Digitized Medieval Manuscripts App)
(<https://digitizedmedievalmanuscripts.org/app/> 2018年1月29日参照)
- ・西洋古版本について学ぶサイト(西洋古版本研究分科会作成ウェブサイト)
(http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early_p_book/abc-for-earlybooks/ 2018年1月29日参照)

資料編

コレクション一覧 (1-2-2)

大学名	コレクション
国立	
香川大学	神原文庫
長崎大学	ドイツ教育思想・教育制度コレクション
秋田大学	Shakespeare Collection (シェイクスピアの主に 18 世紀のテキスト 82 冊) Galileo Collection (天文学関連資料 55 冊。一部、西洋古版本) De re metallica (ラテン語版。1657 年)
上越教育大学	「ペスタロッチコレクション」スイスの教育者ペスタロッチの著作と研究書 148 点。 「ドイツ史の中のプロイセン」18～19 世紀にかけて統一ドイツ形成の中核となったプロイセン王国の政治、経済、教育など広範囲にわたるオリジナル文献集成 742 冊。どちらも 1860 年以降刊行のものも含まれる。
鳴門教育大学	Der Ring des Nibelungen
千葉大学	アダムスミスコレクション(本館) Iconographie photalmologique(亥鼻)
室蘭工業大学	ケプラー全集: 名誉教授より寄贈を受けた 1950 年前後にドイツの出版社ベックより出版されたもの。
新潟大学	「原田文庫」「聞世文庫」(1850 年代以降出版も含む)
東京外国語大学	明治維新前後日本で出版された外国事情・外国研究書、及び、19 世紀中葉以前発行の英・独・露・葡・蘭各国語の図書約 1,200 冊を「特別書」(貴重図書)としている。
群馬大学	インキュナブラ「神曲」 スピノザ文庫
琉球大学	Bull 文庫、英国言語学コレクション
横浜国立大学	ミラボー伯コレクション
愛媛大学	ヘゲルコレクション(ドイツ哲学者ヘゲルの著作集、ヘゲル批評者の著作等、計 424 点)
山形大学	高橋文庫(西洋哲学関係洋書コレクション)

東京学芸大学	ルドルフ・シュタイナー文献コレクション 17-19世紀フランス教育史コレクション ヘボンその他の外国人編纂による日本語・東洋語辞書コレクション
お茶の水女子大学	① A collection on history of women:19世紀より1970年代までの女性の社会的、経済的、政治的、文化的活動に関する資料(531冊) ② A collection of women in society on historical and sociological perspective: 16世紀、17世紀の書籍を含む婦人問題に関する文献集(705冊) ③ ジェンダ研究所が購入した17~19世紀の女性問題関連の西洋古版本(36冊)
東京大学	英国書史関係集書 ダンテ・コレクション カルプツォフ・コレクション ルター・コレクション
九州大学	クンケル文庫 ペラ文庫 など
一橋大学	メンガー文庫 ギールケ文庫 フランクリン文庫 左右田文庫 ベルンシュタイン・スヴァーリン文庫等
名古屋大学	ホップズ・コレクション I, II, III 18世紀フランス自由思想家コレクション 英国貴族院上訴事件判例集 スペイン市民戦争関係資料 リトルトン卿収集パンフレット集成 水田文庫 永井文庫
筑波大学	ベッソン・コレクション シュタイン・コレクション コメニウス文庫 グーテンベルク42行聖書零葉 等

小樽商科大学	全冊貴重文庫扱いは、 大西・手塚記念文庫 手塚文庫 カンバセレス文庫 シェル文庫 フランス革命資料文献 その他、大西文庫の中の『国富論』、大野文庫の『資本論』各初版等
愛知教育大学	チェンバレン・杉浦文庫
公立	
岩手県立大学	ナイチンゲール著自筆書簡、ナイチンゲール著作の初版等
横浜市立大学	田中正司文庫：本学名誉教授より寄贈されたコレクションで、ジョン・ロックやアダム・スミスといった、17～19世紀のイギリス道徳哲学をテーマとしたコレクションである。アダム・スミスの”The theory of moral sentiments”（初版，1795）等がある。
私立	
安田女子大学	18,19世紀フランス服飾・服装コレクション
北陸学院大学	1996年に発行した「キリスト教図書目録」に掲載していますので、ご希望であれば1部お送りします。（この欄では詳しく書ききれません）。
常葉大学	ユング・コレクション（心理学） ハワード文庫（吹奏楽） ラテンアメリカ・コレクション（地域研究）
酪農学園大学	「マンロー文庫」*ニール・ゴートン・マンローはイギリス生まれの医者であり考古学者。後年、北海道でアイヌ研究を行ったそうである。氏の蔵書が当館に寄贈後、「マンロー文庫」として保存している。
駒沢女子大学・短期大学	ヘーゲル「法哲学要綱」初版
摂南大学	①西洋法制史関連資料 ②スペイン黄金世紀稀覯本コレクション
旭川大学	「Professor Lord Richard Kahn's Library of The Cambridge School of Economics from Marshall to Keynes Collection」 「William Stanley Jevons Collection」
聖カタリナ	学園の守護者 聖カタリナの著作 1600年ごろのもの

大学	
産業医科大学	De Morbis Artificum Diatriba (Bernardino Ramazzini)
二松学舎大学	古辞書 ちりめん本
阪南大学	18、19世紀の欧州経済史および思想を中心とした初版～第3 版本を集めたコレクション。 元は竹内謙二氏のコレクションであり、著名な物としてはア ダムスミスの自筆書簡、『国富論』、マルサスの『人口論』、マ ルクスの『資本論』、デイドロ・ダランベールの『百科全書』 各初版本を含んでいます。
文教大学	P.B.シェリーの初版本を含む著作、フランス近代国民教育の 成立に関するコレクション
松本歯科大学	歯学を中心に、1970年以前に出版され貴重とみなされるもの
日本女子大学	Mary Wollstonecraft のコレクション
甲南女子大学	William Shakespeare Collection
武蔵大学	イギリス通貨・銀行史コレクション バルザック（水野文庫）コレクション ラファエル前派コレクション
駿河台大学	「ドイツ法制史古文献コレクション」 「フリードリヒ博士旧蔵書コレクション」
獨協医科大学	Anatomische Tabellen 5. Aufl. An inquiry into the causes and effects of the variolaevaccinæ
名古屋女子 大学	服飾関係コレクション
愛知産業大学	マイケル・レヴィコレクション
東北福祉大学	The works of the Thomas Chalmers
別府大学	古代ギリシアの哲学および文学、
東京慈恵会 医科大学	Die Sitze und die Ursachen der Krankheiten
同志社大学	デューイ文庫（アメリカの哲学者・教育学者ジョン・デューイ による著作ならびにプラクティズム研究関連資料）等
神戸国際大学	聖書
東海学院大学	『Discourses on the Christian spirit and life, 2nd ed.』 1850年出版

	『Critical approaches to American literature, vol.2』 1834 年出版
敬愛大学	限界効用学説からケインズ革命へ — ジェヴォンズを中心として—
大正大学	チベット大蔵経ナルタン版、荻原雲来文庫
広島経済大学	知の系譜文庫
同志社女子大学	ジョージ・クルックシャンク・コレクション
東京神学大学	J. Calvin "Institutio Christianae religionis" (1554)の異なる版、波多野精一文庫
日本女子体育大学	舞踊関連図書
成城大学	ナトルプ文庫
京都女子大学	Jonas family collection / Dylan Thomas collection
大谷大学	ヘルンレ文庫 世良文庫
甲南大学	シェイクスピア関係資料 ディケンズ関係資料
城西大学	Gerschenkron 文庫 Laum 文庫
女子栄養大学	栄養、食養、料理関係
奥羽大学	Raymond M. Sugiyama コレクション（分野：歯科矯正関係）
立正大学	日本関係資料（「イエズス会極東通信」、「日本の知識に対する寄与」など）・「解体新書」関連資料（レメリン「宇宙鑑」、ワルエルダ「解剖書」など）
神奈川歯科大学	Fasciculus medicinae
千葉経済大学	イングランド啓蒙 The Scots Magazine など
学習院女子大学	小口絵本
学習院大学	シーボルト日本動物誌(Fauna Japonica)、明治黎明期に輸入された洋書、他

桐蔭横浜大学	サヴィニー文庫 マックス・カーザー記念文庫
日本福祉大学	イギリス貧困・救貧法関係文献 (Poor Law コレクション)
清泉女子大学	『アンヌ・ドートリッシュの時祷書』 『ステパノス版プラトン全集』
名城大学	Price コレクション Vera Anstey 蔵書(A Collection of books and pamphlets of Indian economics from the library of Dr. Vera Anstey)
フェリス 女学院大学	讃美歌コレクション
上智大学	キリスト教関係
大東文化大学	フランス百科全書 ペリーの日本遠征記 マン文庫
法政大学	三木清文庫、梶田啓三郎文庫、正岡子規文庫等に洋貴重書が含まれている。
関東学院大学	イギリス古典経済・哲学文庫
共立女子大学	イソップ寓話 (Æsop's fables with his life) ナポレオンのエジプト誌 (Description de l'Égypte) ケルムスコット・プレス図録 西洋蔵書票 (Ex libris collection)
園田学園女子 大学	ヴィクトリア朝英国詩集
南山大学	アントニーヌス『倫理神学大全』 欧州中世法コレクション フランシスコ・ザビエル関係コレクション など
近畿大学	ヴァルブレールコレクション キストナーコレクション コーイングコレクション スペンサーコレクション フランス革命コレクション プロセインコレクション、等
鶴見大学	過去に「特定テーマ別目録」を作成しており、特に、ミルトン、デフォー、テニスン、シェイクスピア、シンデレラなどをコレクション収集しています。また少数ですが、医学書・

	聖書なども収集しています。貴重書のみので文庫コレクションはございません。
京都産業大学	『天球の回転について』（コペルニクス著 1543年 初版）、 『プトレマイオス及びコペルニクスの世界二大体系についての対話』（ガリレイ著 1632年 初版）を始めとする天文学の系譜関連
中央大学	デイヴィッド・ヒュームと18世紀英国思想に関するコレクション ジェレミー・ベンサム著作コレクション トマス・ハーディコレクション ケルムスコットプレス刊本を中心とするウィリアム・モリス関係コレクション
専修大学	ミシェル・ベルンシュタイン文庫 ナポレオン関係コレクション
早稲田大学	インキュナブラ フランス経済・社会・思想文庫 ガウ文庫（ギリシア・ラテン文学） オックスフォード大学出版古書コレクション、ほか
東海大学	Dante コレクション Spinoza コレクション Scaliger コレクション Kant コレクション Incunabula
天理大学	東西交渉資料 きりしたん関係史料 アフリカ関係史料 インキュナブラ 聖書 百科事典 泰西名家自筆集 ラフカディオ・ハーン チャールズ・ディッケンズ 西欧古版地図 地球儀 旅行記・航海記

	逐次刊行物(イスラム関係、東南アジア関係、オリエント関係)等
獨協大学	ドイツ表現主義文庫 鈴木信太郎文庫 (19世紀フランス象徴派および中世文学)
関西学院大学	ホッブス、ロック スミス等の著作文庫 スコットランド啓蒙コレクション 宗教改革・教会法コレクション イギリス社会政策コレクション イギリス社会科学古典資料コレクション
明星大学	シェイクスピア研究コレクション (全てが洋貴重書というわけではありません), ほか
福岡大学	ヨーロッパ法コレクション グリム兄弟コレクション。
愛知大学	フーバーコレクション 竹村文庫 A dictionary of the chinese language
慶應義塾大学	グーテンベルク 42 行聖書 (上巻 1 冊のほか、零葉・断簡等を含むコレクション) インキュナブラコレクション 博物誌・百科全書コレクション 西洋経済学コレクション

インターネット公開可能なコレクション一覧 (1-2-3)

大学名	コレクション
国立	
横浜国立大学	ミラボー伯コレクション https://ynu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=612&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&page_id=13&block_id=21 フランス官報 https://ynu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=613&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&page_id=13&block_id=21 貴重書（一部） https://ynu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=614&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&page_id=13&block_id=21
九州大学	http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/
一橋大学	http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/menger/index.html http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/laubrieres/index.html http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/incunabula/index.html
小樽商科大学	貴重図書全文画像データ（洋書）： http://www.otaruuc.ac.jp/htosyo1/siryoyosho/welcome.html
愛知教育大学	http://www.aelib.aichi-edu.ac.jp/lib/cs/collection.html
公立	
岩手県立大学	http://www.iwatepu.ac.jp/information/mediacenter/colle.html
私立	
安田女子大学	本学図書館ホームページ内、所蔵資料リスト欄に詳述
産業医科大学	http://www.lib.uoeh-u.ac.jp/local/block1/index.html
阪南大学	http://www2.hannan-u.ac.jp/lib/archive/index.html
文教大学	https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/lib/klib/collection/french/index.html
大阪工業大学	www.oit.ac.jp/japanese/toshokan/tosho/kinen/index.html

獨協医科大学	http://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=216
同志社大学	http://library.doshisha.ac.jp/ir/
麻布大学	http://turf.azabu-u.ac.jp/htmls-201202/ (洋貴重書公開予定)
広島経済大学	http://www.hue.ac.jp/library/bunko/index.html
駒澤大学	駒澤大学電子貴重書庫 repo.komazawa-u.ac.jp/retieve/kityou
女子栄養大学	http://www.i-repository.net/il/meta_pub/cresult
神奈川歯科大学	http://www.kdu.ac.jp/library/digital/digital.html
学習院女子大学	http://www.gwc.gakushuin.ac.jp/library/collection.html
学習院大学	http://glim-els.glim.gakushuin.ac.jp/index.html
桐蔭横浜大学	http://savigny.toin.ac.jp/savigny/
日本福祉大学	http://library2.n-fukushi.ac.jp/tokubetsu.html
フェリス女学院大学	http://www.library.ferris.ac.jp/
上智大学	http://digital-archives.sophia.ac.jp/rarebook/
京都産業大学	http://www.kyoto-su.ac.jp/library/kichosyo/index.html
中央大学	デイヴィッド・ヒューム・コレクション http://www2.chuo-u.ac.jp/library/hume ジェレミー・ベンサム・コレクション http://www2.chuo-u.ac.jp/library/bentham
東海大学	http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/ctosho/lib/tcollect/text.htm
福岡大学	ヨーロッパ法コレクション http://www.lib.fukuoka-u.ac.jp/e-library/tenji/european_law_2006/index_ec.html グリム兄弟コレクション http://www.lib.fukuoka-u.ac.jp/e-library/tenji/grimm/grimm.html
慶應義塾大学	http://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja (慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション)

西洋古版本研究分科会 会員一覧

阿部 伊作	東京基督教大学図書館
窪田 藍	専修大学図書館
杉山 友美	関東学院大学図書館
ティムソン ジョウナス	早稲田大学
寺島 久美	鶴見大学図書館
永井 夏紀	中央大学図書館
宮原 柔太郎	日本体育大学図書館
吉水 拓哉	立正大学図書館

大学図書館における「西洋古版本」に関する調査 集計報告書

発行日 2018年3月31日
編集・発行 私立大学図書館協会東地区部会研究部
西洋古版本研究分科会
